２００９年６月号

No. 31
年３回発行

東京外国語大学 留学生支援の会

Since 1999

会報

御　礼　新規ご加入、ご寄付くださった皆様

私たち留学生支援の会は留学生の笑顔を期待して活動しています。
日本でのさまざまな体験が留学生を育むことでしょう～（参照２ページ）

Pick Up Event 2009

春の恒例、鎌倉小旅行。鎌倉到着頃には、お天気も◎～留学生たちの晴々した表情をお届けします。（参照８ページ）

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5759 FAX 042-330-5762
E-mail tufs-issa@nifty.com http://homepage3.nifty.com/it-tufs/

IN SIDE

Page 1. 1. 巻頭言
Page 2. 2. ご挨拶
Page 3. 3. 事業報告と事業計画（案）
3－1 平成20年度事業報告
3－2 平成21年度事業計画（案）
3－3 平成20年度一般会計報告と平成21年度予算（案）
3-4 平成20年度特別会計報告
Page 8. 4. 活動報告
4－1 鎌倉見学
4－2 くらやみ祭り
4－3 バザー報告
4－4 自転車貸し出し事業
Page 13. 5. 留学生の声
10年を振り返って
Page 14. 6. 会員の声 将棋のロマン～留学生サトリアの挑戦～
Page 15. 7. これからの活動

FOCUS

1. 巻頭言

留学生日本語教育センターと「留学生支援の会」

留学生日本語教育センター教授
横田　淳子

今年６月には、「留学生支援の会」が発足してちょうど満10年を迎えます。このような記念すべき年の会報に巻頭言を書かせていただき、光栄に存じます。

10 年前、当時の東京外国語大学学長中嶋嶺雄先生が留学生や研究者およびその家族を支援する組織の必要性を述べられ、「留学生支援の会」がボランティア組織として発足したと聞いております。現在のような充実した支援活動を継続的に行う立派な組織に発展してきたことは、ひとえに学長夫人（発足当時）の中嶋洋子会長をはじめ関係者の皆様の日ごろからの献身的なお力によると、留学生に日本語を教えている立場から心より感謝いたします。

私の所属する留学生日本語教育センターは、1970年設立以来、大学のメイン・キャンパスとは離れた府中市住吉町にありましたが、2004 年 2 月に現在の府

中市朝日町のメイン・キャンパスに移転してまいりました。キャンパスが同じになり、センターに在籍する国費留学生も「留学生支援の会」のさまざまな活動に参加させていただくようになりました。

国費留学生は文部科学省から奨学金をもらっておりますので、経済的にはあまり問題はありません。しかし、学部進学留学生の場合は 17 歳から 21 歳の若者たちで、初めて親元を離れ、外国で暮らすという人が大多数です。1 年間で日本の国立大学で学んでいけるだけの日本語と専門知識を習得しなければなりませんので、センターでの勉学は大変ハードなものになります。さらに、希望の大学に進学するには留学生間で競争もあり、年 5 回の試験を含めてプレッシャーを強く受けています。このような留学生にとって、「留学生支援の会」が提供してくださるさまざまなイベントは、日本文化や社会を知り、日本人と交流するかけがいのない機会となるとともに、心のオアシスともなっています。

センターの国費留学生の中には、大学院に進学する予定の研究留学生やすでに母国の中等教育機関の日本語教員である教員研修留学生もおります。これらのカテゴリーの留学生は20代後半から30代半ばの年齢で、結婚して家族がいる人もいます。中には家族も来日し、日本で一緒に暮らしている場合もあります。今は昔と比べて飛行機代も安くなり、家族が来日しやすくなりましたので、国費留学生に限らず、留学生や研究者が家族を同伴する傾向はこれからも続くものと思われます。

家族と一緒だと日本語の習得が遅れたり、勉学に集中できなくなったりすると言って留学生の家族同伴に消極的な意見もありますが、家族と一緒に日本で生活することによって学生とはまた違う形で地域生活に根ざした日本を体験することができ、より深く日本や日本人を知ることになると私は思っています。また、周りの日本人も家族を通して留学生や研究者の生活をより深く知ることができるようになります。しかし、実際には、家族の言葉の問題、生活情報の不足、病気、事故、出産、子どもの教育などいろいろな問題が出てきます。このような問題を通して日本での生の生活を体験し、相互理解につながるのですが、一つ一つの問題を留学生や研究者が一人で解決するのは大変です。来日の目的である勉学や研究に支障をきたす恐れも出てきますが、このような問題は家族の問題であるだけに、大学では処理しにくいものです。留学生や研究者の家族を支えてくださるボランティア組織の「留学生支援の会」が存在することは、こうした点でも大変心強く、また大学にとっても大変有意義なことだと思います。

私自身、初めての海外での生活は研究者の家族として始まりました。多くのボランティアの方々に物心ともに助けられ、日本語教師としての道を切り開くこともできました。「留学生支援の会」が留学生や研究者およびその家族の日本での生活を支援し、相互の理解を促進する活動を行うことによって、その活動が、その後、世界のさまざまな所で芽を出し、花が開き、世界の平和と発展に貢献していくことを確信しております。

2. ご挨拶

新入生の保護者の方々、130 余名が入会くださいました　ただ感謝！

会　長　　中嶋　洋子

新緑の美しい季節となりました。会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

1.　まずは **20 年度事業報告・決算報告、21 年度事業計画案・予算案をご覧ください。**20 年度決算報告の監査を受け、無事修了していることを併せて報告いたします。大学のベトナム科教授で元留学生委員会委員長の川口健一先生に監査をお願いしました。

なお、21 年度事業計画・予算の執行はすでに 4 月以降開始しております。変則的ではありますが、ご異議のある会員の方は、総会を開催する替わりに次号会報発行（11 月）までに当会までお申し出ください。以後の計画を変更すべきかを随時幹事会にて検討、次号会報で報告し、それを以て正式に承認されたものといたします。以上ご了解いただきたいと思います。

2.　この 4 月 7 日、東京外国語大学の入学式が行われました。本年度は従来の府中市の会場が工事中とのことで、調布市の、ある小さな会場で挙行、保護者の方々は近くの別会場にてビデオで入学式の様子を

知るといった不便な状況がありました。

しかし、例年のように、入学式の後に、保護者の方々に当留学生支援の会の紹介と入会の勧誘をさせていただきました。

外語大に入学した学生さんたちは、近い将来に留学を視野に入れている人が多いこともあってか、保護者の方々も外語大にきている留学生に対して深い理解を示してくださいました。

終了後、直ちに入会を受け付けさせていただいたところ、非常に大勢の方々が申し込んでくださいました。私ども幹事 5 名の対応では間に合わない程でした。準備していた70名分程の簡易入会証(領収書)も不足する状況、翌日さっそく送付しました。その数、なんと97名、でした。その後も続々郵便局から振込みをしてくださった方々も含め、**130 余名の皆さんが入会くださいました。心から感謝いたします。**

当会の活動は、まさに会員の方の年会費3，000円の収入をもって運営されております。会員数こそ、活動の要です。

幹事一同、改めて身を引き締め活動を続けていきたいと思います。

3．　会員数に関連して、この場を借りて一つお知らせ、お伺いしたいことがあります。本年、当会は発足以来 10年が経過しました。3 月 31 日現在会員数は 831 名です。

20 年度会費納入をされていない方の数は 423 名、3 年以上納入のない方が 216 名、5 年以上納入のない方が 138 名、です。

そこで **5 年以上会費納入のない方にお伺いいたします。**今後も会員を続けてくださいますか？それとも退会をご希望でしょうか？継続して会員になっていただける方は今回同封しました振込用紙にて21 年度会費 3,000 円をお送り下さい。振込みのない方は退会とさせていただきます。

なお、5 年以上納入のない方全員が退会の場合、20 年度会費納入率が48．67%から58．45%となります。

会報発送料も毎号かなりの金額になることもあり、幹事会で検討の上、以上のような結論に至りました。失礼がありましたらどうぞお許しの程をお願いいたします。

4．　最後にもう一つ、現在メール便で会報をお届けしていますが、**転居された場合**は、ご面倒でも当会までお知らせください。(ご承知かと思いますが、郵便物が転居先に届けられるのは郵便局経由の場合のみです)

REPORT

3. 事業報告と事業計画(案)

3－1　平成20年度事業報告

A.　生活支援事業

1．生活用品、図書を支給するバザーを開催しました

1)　春期バザー
日　時　4月21日～25日
場　所　国際交流会館2号館交流ホール
来場者　約250名

2)秋期バザー
日　時　10 月 14 日～17 日
場　所　国際交流会館2号館交流ホール
来場者　200 名

2．自転車を貸し出しました

貸し出し用自転車数　46台
貸し出し延べ件数　49件

3．緊急貸付金を貸付しました

「留学生緊急貸付基金」より、授業料納入等で困窮している留学生に貸付。
基金総額　6,326,550 円
来年度貸出可能額 498,550 円

4．入院見舞金を贈りました

入院 5 日以上の留学生 4 名に、見舞金(各一万円)を贈りました。

5. 留学生からの色々な相談に応じました

住居、アルバイト、日本語、奨学金、交通事故、大学（院）受験等

B.　友好親善事業

1．大学主催の国際交流の夕べ（留学生交流会）を共催しました

平成 20 年 12月 16 日　大学会館にて
参加者　留学生 200 名、一般 100 名

2. 日本人学生と留学生の交流事業（各国の伝統的なお茶とお菓子の紹介）を行いました

第１回: 平成 20 年７月９日　大学会館にて
紹介した国　韓国、マケドニア、エルサルバドル
参加者　留学生 50 名、日本人学生 10 名、その他10名
第２回: 平成 21 年１月 21 日　留学生日本語教育センター
紹介した国　ベトナム、カンボジア、インド
参加者　留学生 60 名、日本人学生 30 名、その他 20 名

3. ホームビジット・ホームステイを受け入れて頂きました

受け入れて頂いた会員　5名
訪問した留学生　　25名

4. 中嶋会長宅での新年会に留学生が招待されました

平成 21 年１月２日　　参加者 80 名

C. 相互理解事業

１．日本理解事業

１）日本文化を見学・鑑賞しました

①国立劇場「歌舞伎鑑賞教室」
平成２０年７月６日　三宅坂国立劇場
参加者　　留学生３３名　　幹事他７名

②国会議事堂・江戸東京博物館の見学とちゃんこ鍋会食
平成２０年１１月９日
参加者　　留学生２４名　幹事他７名

③鎌倉の史跡見学日帰り旅行
平成２１年３月２０日
参加者　留学生３５名　日本人学生５名
幹事他１０名
鎌倉在住の会員の方がたにご案内・ご説明頂きました

④大国魂神社くらやみ祭へ参加
平成２０年５月４日
参加者　留学生２０名、幹事他２名

２）日本文化を体験しました

①大学主催の国際交流の夕べ「日本文化体験教室」に協力
振り袖着付け、華道、茶道、将棋・囲碁、折り紙・和紙人形・墨絵
平成２０年１２月１６日　大学会館
参加者　留学生１５０人

②日本語広場の開設
講師 ５名　受講者　22 名　　クラス数９

③各種文化体験教室を開設
華道、茶道、書道、囲碁、ギター、尺八
場所　支援の会連絡室・交流ホール

④七夕茶会
平成２０年７月１１日
場所　　学生会館茶室
参加者　留学生４２名、日本人学生１２名

２．国際理解事業

地元の小中学校の国際理解教育へ留学生を派遣しました

立川国際中等学校	派遣留学生	10名
南白糸台小学校	〃	15名
武蔵野台小学校	〃	10名
狛江第一小学校	〃	15名

D. 広報その他の事業

１．『支援の会会報』を発行しました

第28号　平成20年　6月
第29号　平成20年　11月
第30号　平成21年　2月

2. ホームページを運営しました

アクセス数 3,500 件
内容は、イベントの際に更新

3. 色々な機会に会員募集活動を行いました

4. 幹事会を開催し、行事の企画、運営を相談しました幹事会の開催

第１回	平成２０年４月２０日
第２回	5月１７日
第３回	6月２２日
第４回	7月２７日
第５回	10月１３日
第６回	11月２２日
第７回	12月１４日
第８回	平成２１年　1月１１日
第９回	2月１４日
第10回	3月１５日

5. 会員数 831 名　（平成21年３月 31 日現在）

3－2 平成21年度事業計画(案)

A. 生活支援事業

１．生活用品・図書のバザー
春期、秋期の2回

２．自転車の貸し出し
総数66台を順繰り回転で貸し出す

３．緊急貸付金の貸与
基金総額534万円を回転運用して貸与する。
一件　10万まで

４．入院見舞金支給
入院5日以上　1人　1万円

5．生活その他の相談

B.　友好親善事業

1．大学と国際交流事業「国際交流のタベ」（留学生交流懇談会）を共催
12月

2．日本人学生と留学生の交流事業
――留学生による各国の伝統的なお茶とお菓子の紹介を通じて
年に2回

3．会員の協力によるホームステイ・ホームビジットの受け入れ

4．会員のご厚意による交流行事

C.　相互理解事業

1．日本文化の見学
1）「歌舞伎鑑賞教室」の見学
6月14日（日）国立劇場
2）国会議事堂・江戸東京博物館の見学と相撲ちゃんこ鍋会食
3）鎌倉史跡見学
平成21年3月
4）地元の各種伝統行事の見学

2．日本文化体験
1）大学と共催による国際交流事業「日本文化体験教室」の開催
12月
2）日本語広場の開催
3）各種文化体験教室の開催（支援の会連絡室）
華道、茶道、書道、囲碁、尺八、ギター
4）七夕茶会
7月

3．国際理解事業
地元の小・中学校の国際理解教育へ講師として留学生を派遣

D.　広報その他の事業

1．『支援の会会報』の発行
第31号（6月）、第32号（11月）、第33号（平成22年2月）

2．ホームページの運営

3．会員募集のための諸活動

東外大に集う志の高い留学生は、皆様ひとりひとりのご協力により、日本で体験を重ね、成長していくことでしょう。
本年度の活動もますます充実したものとなるよう、励んでいきたいと思っております。

3－3 資料――会計報告と予算（案）

平成 20 年度　一般会計収支決算　平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日

《収入の部》

科目	項目	予算額	決算額	摘要
前年度繰越金		2,557,080	2,557,080	
会費	会員	1,290,000	1,173,000	3,000円×391名
	協賛会員	100,000	120,000	20,000円×6名
寄付	一般	500,000	381,000	
	緊急貸付基金	300,000	1,108,000	
その他	バザー等	100,000	197,860	バザー収益金・国際交流のタベカンパ・行事参加費
	利息	3,000	2,543	
	収入の部合計(A)	4,850,080	5,539,483	

《支出の部》

科目	項目	予算額	決算額	摘要
活動費	国際交流行事共催費	400,000	355,980	伝統文化体験費・交流会費（大学との共催）
	史跡見学費	120,000	150,110	鎌倉見学
	日本文化見学費	200,000	244,834	歌舞伎、国会議事堂・江戸東京博物館
	日本文化体験費	150,000	149,572	華道・書道・茶道・将棋・尺八・ギター・日本語広場他
	各国文化紹介費	200,000	133,752	茶・菓子・料理等
	交流活動費	50,000	17,120	国際理解教育交通費
	入院見舞金	70,000	50,000	
	活動費小計（a）	1,190,000	1,101,368	
運営費	ホームページ管理費	170,000	173,753	ホームページ管理費10,000円/月・プロバイダ使用料
	消耗品費	30,000	59,614	自転車貸出関係50,570円
	備品費	30,000	20,664	電気ポット・耐熱ガラスポット・カセットコンロ
	通信費	250,000	257,560	会報発送費
	印刷費	270,000	149,331	会報等印刷費
	会議費	5,000	－	
	連絡室運営費	10,000	21,149	
	郵便振替手数料	40,000	41,410	
	運営費小計(b)	805,000	723,481	
予備費	（c）	100,000	－	
繰入金	緊急貸付基金（d）	300,000	1,407,690	
合計（B）	支出の部合計(a)+(b)+(c)+(d)	2,395,000	3,232,539	
次年度繰越金（A）－（B）		2,455,080	2,306,944	

（A）－（B）＝ 5,539,483 － 3,232,539 ＝2.306.944円は、平成21年度へ繰越

平成 21 年度　一般会計予算（案）

《収入の部》

科目	項目	21年度予算額	備考
前年度繰越金		2,306,944	
会費	一般会員	1,350,000	3,000円×450名
	協賛会員	120,000	20,000円×6名
寄付	一般	500,000	
	緊急貸付基金	300,000	
その他	バザー等	200,000	バザー収益・国際交流のタベカンパ・行事参加費
	利息	3,000	
収入の部合計(A)		4,779,944	

《支出の部》

科目	項目	21年度予算額	摘要
活動費 （友好親善事業 ・相互理解事業）	国際交流行事共催費	400,000	伝統文化体験費・交流会費（大学との共催）
	史跡見学費	150,000	鎌倉見学
	日本文化見学費	250,000	歌舞伎、国会議事堂・江戸東京博物館
	日本文化体験費	150,000	華道・書道・茶道・将棋・尺八・ギター・日本語広場
	日本人学生との交流会	200,000	茶・菓子等
	その他の交流活動費	50,000	地域の諸行事参加等支援・国際理解教育交通費
活動費 （生活支援事業）	自転車貸出事業	100,000	
	入院補助金	70,000	
	活動費小計（a）	1,370,000	
運営費	ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ管理費	170,000	ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ管理費10,000円/月・プロバイダ使用料
	消耗品費	30,000	
	備品費	30,000	
	通信費	250,000	会報発送費
	印刷費	200,000	会報印刷費・コピー代
	会議費	5,000	
	連絡室運営費	10,000	
	郵便振替手数料	40,000	
	運営費小計(b)	735,000	
予備費	(c)	100,000	
繰入金	緊急貸付基金（d）	300,000	
支出の部の合計（B）	(a)+(b)+(c)+(d)	2,505,000	
次年度繰越金 (A)-(B)		2,274,944	

3-4 平成20年度特別会計(緊急貸付基金)報告

1	前期基金総額	4,919,000
2	当期基金積み増し額	1,407,550
	(寄付金 1,045,000＋一般会計からの繰り入れ 300,000＋バザー売上げ金 62,550)	
3	当期基金総額（１＋２）	6,326,550
4	損金計上(欄外注記参照)	985,800
5	繰越基金総額（３－４）	5,340,750
6	前期末貸付残額	2,810,000
7	今期貸付額	3,018,000
	(授業料等１０件、生活費１５件、医療費１件、引越し等６件、研究調査旅費６件、緊急帰国費２件)	
8	期末貸付残額（６＋７）	5,828,000
9	繰越貸付残額（8－４）	4,842,200
10	貸付可能繰越金（３－8）	498,550

（平成 20 年４月～平成 21 年３月）単位：円

注記：損金処理について

緊急貸し付け基金創設の平成 14 年より７年が経過しました。その間 307 名の留学生に貸与され、学費・医療費・生活費等の支払いの困窮や除籍の危機に直面する留学生が学業を継続するのに役立ちました。貸付金の延べ総額は、19,349,000 円になります。

当然のことながら、ほとんどの貸付金は返済されてきました。期日どおりとは行かないまでも毎月５千円ずつ２年以上かけて返済する学生や、財政的な理由で長期に休学しその間返済出来ず、復学後に少しずつ返済してきた学生や、帰国後就職をしてやっと返してきた学生もいました。ただ、残念なことに一部の返済が滞りました。返済出来ないまま大学に来なくなり、除籍になった者もいます。これまでは、留学生の様々な事情を考慮し、返済可能となればいつかは返済してくるものと期待しつつ、連絡と督促には努めてきました。このたび現状を幹事会で検討の結果、返済が長期にわたって滞り、連絡が取れなくなった者についてはいったん整理をすることとし、緊急貸付運用指針に基づき、未回収事態が長引き、将来にわたっても回収が極めて困難と思える 2005 年までの貸与分 985.850 円については損金処理をすることになりました。（幹事　梅田　由美子）

4. 活動報告

4－1 鎌倉見学

鎌倉見学をガイドして

（鎌倉市ガイド）望月　和彦

３月２０日は朝方から地面にたたきつけるような激しい雨が降っており、今日の見学は出来るのかと心配しました。しかしその雨もお昼少し前には上がり快晴の天気になりました。

鎌倉という土地は 1182 年から 1333 年までの間、初めて武家政治（武士が政治の実権を握って政治をした）が行われた所です。それまでは奈良や京都で、天皇を中心とした貴族による政治がなされていたのです。武家政治の始まる前は政治の権力争いのために、この朝の天気みたいに大荒れな時代がありました。

先ずは中世の武士が築いた街並みの中心を貫く道に入って、鎌倉のシンボルの鶴岡八幡宮（街の守り神が祭られている）に向かって、傘をさしながら足を運んだのでした。

三連休の第一日目のため、境内にはいつもよりも大勢の人がお詣に来ていて、その中に結婚式をあげてきたばかりの若いカップルやお宮参り（神様に赤ちゃんの将来の幸せをお願いする）に来ている人達に出会いました。

学生さんはこれら日本の風習や習慣に接して、写真を撮るのが楽しいようでした。

昼食の後は青空のもと元気いっぱいに、建長寺に向かいました。

お寺は静かな谷間にあり、ゆったりとした時間が流れていました。学生さんは仏殿、法堂などの建物に入って、鎌倉時代からの宗教的な雰囲気を感じていました。

武士によって創建されたこの寺は中国から高僧を招いて開かれたのです。

高僧の招来と共に建築や工芸、絵画、文学、書、医薬、庭造り、食材や料理方法などの文化や文物が移入されました。この寺は進んだ中国文化を受け入れ、発信していた文化センターでもあったのです。

次に亀ケ谷切り通しを通って市内に戻り、混み合った電車に乗って長谷駅まで移動しました。高徳院を訪れ、国宝の鎌倉大仏とご対面しました。

かなり暑い気温となり、少し疲れが出た学生さんも見受けられました。しかし、なにびとも受け入れてくれる優しいお顔の大仏の前では、元気を回復して盛んに記念写真を撮っていましたね。長谷観音では西日を浴びて光る海が眺められました。

今回も歩きながらまた食事どきに、何人かの留学生の皆さんとお話し、小さな国際交流が出来て楽しい思いをしました。

最後に中嶋さんからの鎌倉は楽しかったですかとの問に、皆さんから大きな声で「はい」という返事を聞いて、嬉しいお別れとなりました。

私の鎌倉の旅
～この目で見たもの、感じたもの～

大学院博士後期課程
李　宇霞（中国）

留学生支援の会の招待で3月20日鎌倉を訪れることになりました。朝、新宿から8時20分の電車に乗り鎌倉に向かいました。途中まで晴れていた天気が急に変わり鎌倉に着いたときは大雨になってしまいました。でも、雨の中の鎌倉を見ることができ、貴重で素敵な体験となりました。ガイドさんの親切な説明を聞きながら、雨の中の八幡神社を見学しました。「平家物語」の源氏と平家の歴史的な物語には魅了されました。島の数が源家が3つ、平家が4つ、ということから源家が勝利することに結びついたということに興味深く感じました。占いは中国だけでなく、日本も昔からの慣わしだと思いました。

神様のご加護により、天気がだんだん回復し、晴れてきました。日が差した中を、早めに開花した桜や緑に囲まれた建長寺を見学しました。なんて美しいお寺だろうかとすっかり見惚れて、絶句しました。僧侶たちは世の中の煩悩を離れ、このような大自然に囲まれた静かなところで心を清め、身を正すのかと思い、羨ましくなりました。

建長寺を後にして、有名な鎌倉の大仏さまへ足を運びました。中国では仏様が聖なる存在なので拝むことが普通ですが、鎌倉では大仏の中に入ることができます。このことは本当に驚きでした。それが日本と中国の宗教意識の違いであるだろうと推測できます。

その後、江の島の海を見に行き、とても感動しました。中国内陸出身の私にとって、海はめったに見ることができませんので、この広々とした海原を見たとき、自分は小さいと感じたと同時に、どんなに大変なことがあっても、海の波に乗って乗り越えられるような気がします。サーフィンをやっている人たちも見ましたが、彼らの未知の海にチャレンジする勇気に感心しました。人間は絶えず大自然に挑戦しながら、どんどん成長していくでしょう。私もこれから頑張らなければならないと決心しました。

留学生支援の会のおかげで、楽しいひと時を過ごしました。名所旧跡を楽しみながら、日本の歴史、文化をより深く理解することができて何よりです。さらに自国中国との文化の違いについて考えさせられて、いろいろいい勉強になりました。先生方とガイドさんに感謝の気持ちでいっぱいになりました。帰国後、この目で見たもの、感じたものを中国の学生たちに伝えて、微力ながら日中友好の架け橋になるように頑張っていきたいと思います。

あらゆることに興味津々

スペイン語専攻４年
中村　恵理

私は今年の春、鎌倉を訪ねました。といっても、ただの観光旅行とはひと味違います。外大留学生支援の会が主催する、留学生と行く鎌倉ツアーだったのです。実は今回が私にとって初めての鎌倉訪問だったのですが、様々なバックグランドを持つ留学生の方たちと共に日本の古都を来訪できたことは、忘れられない体験となりました。

朝の新宿駅東口。そこに集まっていたのは、留学生支援の会の方数名と、日本人学生６人、そしてなんと留学生 30 人！日本人の友達一人を除いては、皆知らない人ばかり。ほとんどの人が日本語を話しているものだから、どの人が「日本人」でどの人が「留学生」なのか全くわからずどぎまぎしながら、新宿駅を後にしました。

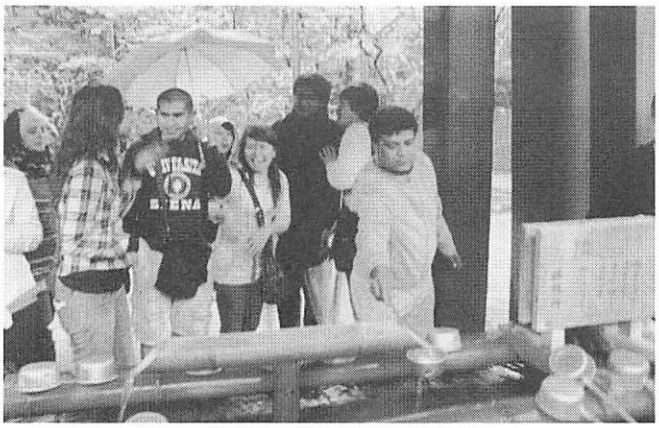
電車に乗って一時間程度で、鎌倉に到着。この移動の間に、顔も全く知らなかった今日の旅行のメンバーとはすっかり打ち解けました。留学生達と共に鎌倉の街を歩いてみると、一人で歩くだけでは気づかないような、様々な発見がありました。特に印象的だったのは、日本の宗教的な行いに対する留学生たちの反応が、一人ひとり違っていたということです。例えば、寺院に入る際に身を清めるために、手水舎で手や口をすすぐ行為。これに対する留学生の反応はというと、不思議そうに見ていたり、面白がってやってみたり、自分はキリスト教徒だからやらない、と言ったり、実に様々でした。そういえば私も小さい頃は、親がこの行為をしているのを不思議そうに見ていました。習慣というのは慣れてしまうとその意味を問うことは滅多にないのですが、今回はこの「水で身を清める」という行為の意味を改めて考えるきっかけになりました。

これと似たような体験を、今回の旅の先々ですることができました。つまり、「日本人」だけでは見落としてしまいがちな小さなもの（だと思い込んでいるもの）にまで気づくことができたということです。今でも鮮明に覚えているのは、高さがほんの 30 センチほどの小さな「地蔵」を、珍しそうに写真に収める留学生たちの姿。また、美しく調和の取れた日本庭園をうっとりと眺める姿。街道沿いにいくつもあるおせんべい屋さんを、目を丸くしながら見る様子。あらゆることに興味津々の彼らを見て、私もたくさんの良い刺激を受けました。

この一日で、ほかにもここには書ききれないほどの、いくつもの驚きと感動がありました。本当に有意義な一日を過ごすことができたと思います。参加してよかった！と心から思いました。しかし、このような貴重な機会を多くの日本人学生が見逃していることも間違いではありません。これからは更に多くの学生の参加が実現することを願っています。そして最後に、このような企画を提供してくださった留学生支援の会の方々、本当にありがとうございました！

（↑大仏様が見守る中、留学生たちもほっと一息）

（↑一日の小旅行でも、仲良く、楽しく、国際交流の輪が広がる若者トリオ）



（↑まずは手を清めて、こんなこと一つ一つが初めての体験に）

4－2 大国魂神社くらやみ祭り

英語のパワーとその限界

ロシア語専攻１年
山内　一優

大国魂神社くらやみ祭見学に参加させていただき、ありがとうございました。

留学生の方はみなフレンドリーな方ばかりでしたし、日本人学生ともすぐに仲良くなれ、非常に楽しい会でした。

その時私が感じたのは、英語という言語のもつ力です。

私が今まで知り合った外国人はそれほど多くはないですが、ほとんどがイギリスといった英語を母語とする人達ばかりでした。

しかし今回は、むしろそういった人は日本人学生を含めごく少数で、本当に色んな国の人がみな英語といういわゆる「媒介」を通じて、お互いの意思疎通をとっていました。もちろんそれぞれの国で微妙に言い方や発音が違ったりで、私自身も四苦八苦する場面は多々ありましたが、これだけの多種多様な国を何と言いますか、そうめんを束ねている紙テープのようにキュキュっと何事も無かったかのようにひとまとめにしてしまう英語という言葉のパワーを、肌で強く強く感じました。これは実はもの凄いことだと思います。

しかし、その一方で感じたのは、英語にはその限界もあるということです。

ロシア語圏の留学生と話していた時、私がロシア語専攻だと言うと、彼女は嬉しそうな顔をして「！？＆？＃」と何かを言っていましたが、なにせ私は習いはじめて二週間なので、分からないというと、少しがっかりした顔をしました。

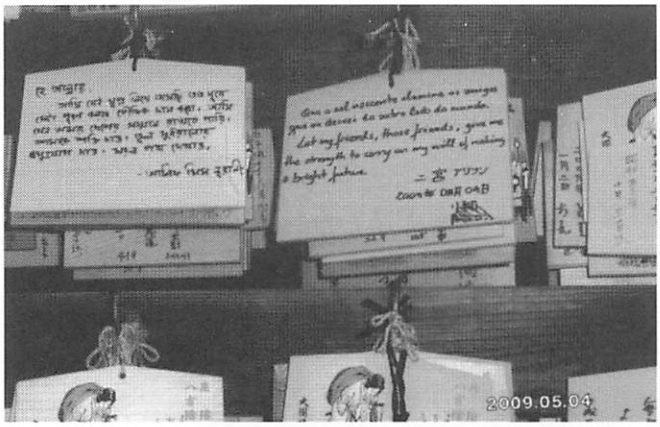
町を歩いているとき、ポルトガル語を習われている方と会いました。その方がブラジルからの留学生に話しかけると、その留学生は今まで以上に生き生きと話し始めました。

この二つを見て思ったのは、やはりただの意思疎通ではなく、もう一歩先の、「心と心を通わせた交流」を行うには相手の母語にはかなわないということです。それは世界中の人にも当てはまることです。英語に取って変わるのは有り得ません。

私は、この会を通じて、以上のことを感じました。あと、私みたいに留学生と仲良くなりたい！と思っている人が外大にはたくさんいます。こういった企画を多文化コミュニティ教育支援室からもやっていけたらと思っています。

この度はありがとうございました！

（↑花の万灯で記念撮影）



（↑皆それぞれに絵馬に想いを託しました。
夢よ、願いよ、叶いますように！）

4－3 バザー報告

4月期バザーへのご協力ありがとうございました

去る4月27日（月）、28日（火）、30日（木）の3日間開催しました留学生支援のためのバザーには、様々な品物をご寄付いただき、ありがとうございました。書籍、各種辞書、電気釜、冷蔵庫、テレビ、電子レンジ、温風器、トースター等の電気製品、寝具、衣類、台所用品、バスタオル、石鹸、洗剤などの日用品、缶詰、お米等の食料品などなど、すべて留学生が必要とするものばかりでした。その中には、毎回人気のある電気釜、寝具類がたくさんありました。

第一日目は、開始と同時に大勢の留学生が押し寄せ、目当ての品物を求めて大賑わいでした。今回も原則として、電気製品 500 円、他はすべて 100 円（小さな物はまとめて）、書籍は無料としました。毎回のことですが、辞書、電気製品（特に電気釜）、寝具類は人気があり、ほとんどが1時間ほどでなくなりました。バザーに集まった大半の留学生が来日したばかりでしたので、様々な日用品も喜ばれました。一日 5 点までとしましたが、家族のいる留学生たちは、家族と一緒に何度も来て必要なものを楽しみながら選んで、たくさん品物を持って帰っていました。

送っていただいた沢山の品物は、衣類、食器類を除き木曜日には、ほとんどなくなりました。留学生たちは、いい品物を安価で得られて嬉しそうでした。支援の会にありがとう！これからもよろしく！と、口々に言って帰って行きました。

バザーの収益金は、52、115 円でした。

＊毎回、送料もいとわず沢山の品物を提供していただいた会員の皆様には、留学生ともども心から感謝申し上げます。（梅田記）

4－4 自転車貸し出し事業について

「江戸時代の自転車」

幹 事　舘 浩道

自転車の誕生は 19 世紀初頭と云われているから、江戸時代の日本に自転車など存在しない。「江戸時代の自転車」とは、エジプトからのある女子留学生がボクに云った言葉だ。その頃、東外大留学生支援の会は、近隣住民から中古自転車を頂いてきて、それを留学生に貸し出すという仕事を始めたばかりだった。

都内北区から府中の東の端に移転してきた東外大はロケーションが決していいわけでもなく、バスや電車も都内のように利用しやすいものではなく、移動手段として自転車は留学生ばかりでなく、一般の日本人学生にも人気がある。

この中古自転車を借り受けたエジプトの女子留学生は、軽いノリでこれを「江戸時代の自転車」と云ったのだ。博物館行きのような自転車だったのかもしれない。将来はエジプトで日本語の通訳の仕事に就きたいと云っていたこの留学生は帰国してしまったが、「江戸時代の自転車」は、周辺住民の協力や、自転車店の協力で少しずつ台数が増えていった。それにつれ、留学生の人気も高く、いつもウエイティングリストは 2～3 カ月待ちが続いている有様だ。

いっぽう、キャンパス内には主に日本人学生の自転車があふれ、また長期の放置自転車もおびただしい数に上っている。そこで、このキャンパス内放置自転車を留学生向けに再利用することはできないかと考えた。大部分は地方からの日本人学生が卒業時に、キャンパスに放置して帰るのだが、まだ使える自転車をくず鉄にしてしまうのは、昨今のエコの風潮からも、もったいない気がするの

だ。

大学側もこの放置自転車には手を焼いている。毎年、資源業者に高い金額をつけて引き取ってもらっているという。そこで、この話を大学側に持ちかけたら、渡りに船となった。約300台ほどの放置自転車のなかから、よさそうな自転車を選びだした。これを、元の所有者名義から当会の名義に再登録しなければならないのだが、ことはそう簡単には運ばない。

所有権の問題は大学側が学内告知をして所有権放棄と見なすとしているので問題はないものの、盗難車のチェックを警察でしてもらうため、リストを作成して提出したところ、やはり、選んだ自転車のなかにも盗難届けが出ているものが見つかった。お巡りさんがやって来て、鍵のかかった自転車を交番までの長い距離を前輪だけで転がして行った。

いよいよ当会名義への再登録である。これも警察に相談した。警察は市内の自転車商組合の組合長を紹介してくれた。自転車は鍵が掛けられた状態で放置されているし、その1台を組合長の店まで運ぶだけでも大仕事だ。そこで組合長に頼みこみ、大学まで「出張再登録」をお願いした。「こんなこと初めてです」と組合長は云ったが、お店の休日の日に出張してもらい、30台近い放置自転車の名義変更は無事終了した。

まだその1台1台を点検・整備する仕事が残っている。留学生が待っている。急がねばならない。

（会員／近隣住民）

VOICE

5. 留学生の声

10年を振り返って

大学院博士後期課程
高　京美（韓国）

日本に来て、もう10年の時が過ぎた。あっという10年であったが、留学当初の私のことを思うと、10年も日本にいるなんてとても不思議に思える。

10年前、成田空港に初めて降り立った時、空港内の案内放送で流れる日本語がまったくわからなく、とても不安な気持ちになっていたのを今でも鮮明に覚えている。しかし、今では日本人と日常会話ができ、テレビでお笑いを見ながら笑えるようになり、そして日本人と同じ授業を受けられるようになったのをみると、やはり10年という時が経ち、そして10年という時が私を変えたことには間違いないようだ。

日本での10年のうちの8年を外語大で過ごした。私の日本での生活のほとんどは、外語大で過ごしたと言っても過言ではない。そして、外語大の入学は私にとって新たなスタートラインであったとも言える。特に、外語大での生活はそれまでの日本語に対する興味をまったく別のものに変え、また新たな夢を抱けるチャンスを与えてくれた。日本に最初に来た時は、単に話せればいいと思っていた日本語であったか、もっと日本語を知りたいと思うようになった。この気持は入学して8年が過ぎた今も変わらず、おそらくこれからもずっとそうだと思う。そのおかげでまだ外語大の学生として学校に居続けている。

そして、単に勉強だけではなく、多くのものを日本で学んだ。今では韓国も日本に対するイメージが前よりは良くなったが、韓国と日本は過去の歴史の影響もあって、私自身も日本、日本人に対してあまり良いイメージを持っていなかった。しかし、日本で生活し、日本人と接し、日本の文化に触れることで、日本に対する私のイメージが変わっていき、日本、そして日本人に学ぶべきことがあることを感じた。もしかしたら、日本にいる間、学業で学ぶことよりも、生活していく中で学ぶものがもっと多いのかも知れない（だからこそ留学の意義があるのかも知れないが…）。そして、無意識のうちに私の身についていっているような気がする。夏休みや冬休みに韓国に帰ると、友人や家族たちに私のことを日本人みたいとよく言われるようになったのだ。今になって、日本は私の第二の故郷のようなものである。

これからもできるだけ日本にいる間、たくさん

のことを見て、感じ、学んでいきたい。そして、韓国に帰って日本で学び、感じたことを多くの人に伝えていきたい。

VOICE

6. 会員の声

将棋のロマン
～留学生サトリアの挑戦～

会 員　佐々木 日出男

日曜日の昼近く、ＮＨＫ教育テレビの二時間番組「将棋講座」のプロ棋士対局の終盤は「詰むや詰まざるや」の熱戦である。名だたる解説者もしばし無言。見る人も読みに沈む。

「吹けば飛ぶよな将棋の駒にかけた命を笑わば笑え」「愚痴も言わずに女房の小春」と坂田三吉の挑戦に縁台将棋ファンが熱中したかっての日本の庶民文化も様変わりした。

「インターネットだけで覚えたんですが」と将棋を日本人のこころを知る文化の手がかりとして取り組んできたＩＳＥＰ日研生ムハマド　サトリアは日本の京都大学に比肩されるインドネシア文化の中心ガジャマダ大学の三年生。

父親からチェスの手ほどきをうけて育ち、その延長線上にあった日本の将棋という。昨秋留学生支援室にやってきたなは将棋サロンとしての活動もあると聞いてのこと。何回か対局するとさすがに「筋の良さ」がある。

滞日はわずか一年のプログラム。折りよく暮れに留学生支援の会の日本文化紹介企画として「囲碁・将棋」に参画、来学し指導対局の日本将棋連盟棋士七段堀口弘治氏（府中市在住）に紹介。
その後、同棋士は千駄ヶ谷の将棋会館に案内の労をとってくださり、四階の対局室で女流プロの対局を数分ながら見学までできた。

これで波にのったサトリアの将棋修行が起動にのり、目標ができ、ＮＨＫ将棋テキストで半年間段級位認定に挑戦。五月、正解九割で参段位の認定を勝ち取った。日本留学のすばらしい「おみやげ」ができたことになる。
「留学生支援」は多くの人によって支えられて、文化の交流に資する尊い作業である。
これはそのひとつの例でありましょう。
永い将棋の歴史の中で、日本を研究対象とした外国人は早くからその文化的価値に注目してきた。
イギリスBBCテレビのトレバー・レゲット氏はその嚆矢かもしれない。滞日十数年、高段の実力と深い見識で英語圏に紹介した。
「障子からサッと陽が差し込む。其の瞬間、挑戦者が端歩を突く。名人の顔が一瞬蒼ざめる」
原文は英文で正確な引用ではないので恐縮ですが、和室、和服で正座、静寂の真剣勝負の瞬間の表現は、すべてを包み込んで美しい。

ご入会、ご寄付
ご協力いただき、ありがとうございます

新規加入者

■平成20年度　一般会員新規加入者（平成21年２月１１日ー３月３１日）（敬称略）
田山のり子

■平成21年度　協賛会員新規加入者（平成21年４月１日ー５月２０日）（敬称略）
星野隆

■平成21年度　一般会員新規加入者（平成21年４月１日ー5月２０日）（敬称略）
赤沼真理子、秋保賢一、秋元重寿、東恭子、
阿部千代男、安部光昭、有泉幸子、安藤由美、
飯島義仁、生森誠、井澤満ちる、石井将暁、
市川通代、井出恵美子、伊藤淳子、伊藤善三、
稲員尚志、井上喜敬、井之口香織、岩崎和人、
内田智彦、内野治、大久保栄喜、大澤正恭、
太田智恵、大谷若夫、大塚美江、大野典子、

大野光子、岡田篤、緒方奈央、尾﨑芳江、小原智恵、鹿嶋俊文、柏田猛、加藤江美、加藤新一、加藤千枝、金丸由美、鴨志田俊男、河原木智行、神田勝美、木﨑安紀子、膳畑公貴、楠本弘、楠脇厚子、熊谷弘美、熊木孝太、久米英明、栗原昌孝、黒川玲名、河本聡子、小島克巳、小村弘和、斉藤勳、斉藤きみ子、齋藤真純、五月女春夫、酒井貫充、佐久間剛、佐々木栄、佐々木美喜子、佐々木道義、佐藤公俊、篠原靖子、篠光昭、柴田桂太、島崎淳、下山裕司、庄治雄大、白井みどり、白鳥哲生、菅沼洋子、菅原佳世子、鈴木修、角谷美喜子、関川祐治、関島浩、髙尾武志、髙木義浩、高橋明雄、髙松加帆、滝昌和、田口利美、舘山昌子、田中豊、田中隆也、辻久雄、徳江裕二、得丸英司、栃尾純子、長島章博、中村龍太、能美朗、納山盛廣・盛夏、野口邦彦、野田龍二、野村和歌子、長谷川幸雄、羽斗理恵、濱宏、早川裕、林公司、林義隆、原慎一郎、原田幸治、伴武澄、福島裕子、福田雄三、藤原正、藤原正浩、星崎安希奈、細井久幸、堀川真由美、堀部英二、増岡義之、松村洋三、松山満、丸山美鈴、丸山靖史、宮下則子、村岡みゆき、村瀬郁子、毛利雅夫、本岡万里子、森淑美、八重樫一洋、矢島敏男、安長宏之、山川輝夫、山﨑眞史、山田奏乃、過足佐知子、横川美代子、吉岡佳子、吉川佳見、渡邊方子、渡部和之

会員寄付者

■一般寄付

平成20年度(平成21年2月11日〜3月31日)

(敬称略)　田山のり子

平成21年度（平成21年4月1日〜5月20日）

(敬称略)　秋元重寿、岩崎和人、太田智恵、鹿嶋俊文、高下明美、星野隆、堀川真由美、松山満、原田幸治、安部光昭、宮澤聡子、尾﨑芳江

万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節は、当会までお知らせ下されば幸いです。

ACTIVITIES

7. これからの活動

1 留学生と日本人学生の交流会 2009年 7月24日(金)

各国の留学生が文化紹介をし、お茶とお菓子を通して、交流の輪を広げます。この機会に会員の方も、是非ご参加ください。参加ご希望の方は、当会または下記までご連絡下さい。042-330-5183(火、水、金のみ、梅田まで)

♪＊♪＊　各国文化紹介―お茶とお菓子をとおして―発表参加国（予定）
台湾、ネパール、ノルウェー　♪＊♪＊

2 秋期(10月期) バザー開催

バザー開催期間:10月20日(火)〜10月23日(金)

バザー用品受付:10月13日(火)〜10月19日(月)

バザー用品受付等、詳細は 別紙ピンク色 の印刷物をご覧の上、ぜひご協力をお願い申し上げます。

◆◆◆◇◆◆◇◆◆◆◇◆◆◇◆◆◆◇◆◆

JOIN FOR BAZAAR!

会員の皆様のご参加をお待ちしています。

当日のお手伝い参加可能な方は、当会、または下記までご連絡下さい。042-330-5183(火、水、金のみ、梅田まで)

◆◆◆◇◆◆◇◆◆◆◇◆◆◇◆◆◆◇◆◆

平成21年度 会費納入のお願い
随時受付

平成21年度も**引き続き**会員としてご支援いただきたく、本年度会費を同封の振込用紙にてお振込下さいます様、お願い申し上げます。**振込用紙にメールアドレスをお書き添えいただければ**、今後、当会の各種イベントなどの情報をお届けしていきます。

幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。

平成21年 4月25日(土)
平成21年 5月 9日(土)
平成21年 6月13日(土)

HOME VISIT & STAY

ホームビジット、ホームステイ受け入れに
関心のある方は是非、当会にお問い合わせ下さい。

ご意見、感想など、会報への 投稿募集 どしどしお寄せ下さい

当会へのご意見、ホームビジットやイベントに関しての感想文など、会報への投稿をお待ちしております。
お気軽にお問い合わせ下さい。

＜お問い合わせ先＞
〒183-8534 東京都府中市朝日町３－１１－１
東京外国語大学 留学生課気付（谷川、梅田）
ＴＥＬ：０４２－３３０－５７５９
ＦＡＸ：０４２－３３０－５７６２
Ｅ－ｍａｉｌ：tufs-issa@nifty.com
http://homepage3.nifty.com/is-tufs/

©Copyright 2009, TUFS International Student Support Association

２００９年１１月号

No. 32
本号は第32号

東京外国語大学
留学生支援の会

Since 1999

会報

今年度の活動も、順調に始動しました。
留学生と日本人学生との交流の場を積極的に設けています。

Pick Up Event 2009

Pick Up 1→留学生の様子をじっくりお知らせ！（各活動報告をじっくりご覧ください）
Pick Up 2→"日本語広場"に生まれたての赤ちゃんを連れて・・・
熱心に学ぶ生徒と、その先生は？（8ページ参照）

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5759 FAX 042-330-5762
E-mail tufs-issa@nifty.com http://homepage3.nifty.com/it-tufs/

IN SIDE

Page 1. 1. 巻頭言
Page 2. 2. ご挨拶
Page 2. 3. 活動報告
3－1 歌舞伎見学と茶話会
3－2 国際理解教育
3－3 留学生と日本人学生の交流会
3－4 七夕茶会
3－5 日本語広場
3－6 将棋教室
3－7 10月期バザー
Page 9. 4. 留学生の声
4－1 Thanks to the ISSA!!
4－2 素晴らしい東外大に学ぶ喜び
Page 12. 5. 会員の声
Page 13. 6. これからの活動

FOCUS

1. 巻頭言

政権交代と東京外大

東外大　事務局企画調整役
錦戸　健二

本学に着任してから間もなく3年が経とうとしている。池端学長（当時）からの「国際的な視点で仕事に取り組むように」との訓示を覚えている。着任前の私の東京外大のイメージは『我が国の国際化拠点大学』であり、国立大学の中でユニークなキャラクターを持つオンリーワンの存在であった。学位記授与式での26専攻語代表教員による贈る言葉、留日センターのオリンピック的な入学式、外語祭での語劇などを見ただけでも、本学の先輩諸氏が築いてきたインターナショナルな歴史と伝統を肌で感じた。

国立大学は平成16年の法人化を契機に、親方日の丸的な環境から競争的環境の荒波に船出した。私立大学との競争、そして最近は国立大学同士での競争が始まった。国立大学運営費交付金が毎年削減される中、各国立大学は外部資金の獲得や資源（予

算）の有効配分を重視し、自大学の長所を伸ばす領域への重点投資を開始した。本学でも、亀山学長アクションプランの下、国際教育支援基金の創設、異文化交流施設（仮称）の建設、e－アラムナイ学生支援など、国際化拠点構築を目指す大学づくりが始まった。ただし、厳しい予算の中で、留学生支援関係のきめ細かな部分への予算増は難しい状況だ。

「留学生支援の会」の親身な献身的な支援活動は、本学留学生にとって、母国の家族の温もりを思い出させる一瞬と思う。バザー、ホームスティ、国際交流の夕べ、バスツアー、貸付基金、日本料理教室、日本語広場、自転車貸与など、その手作りの支援メニューは暖かくて多彩だ。日本語広場で、留学生（妻帯者）の家族が日本語の学習をしているとの話を聞き、そのきめ細かな支援に舌を巻き、大学職員の一人として感謝の念を通り越して頭が下がる。

政権交代で霞が関はテンヤワンヤのようだ。新政権は、高校授業料の無償化や奨学金の拡充など教育費の軽減をはじめ経済的弱者に手厚い政策を展開していくだろう。その経済的支援対象に留学生を加え、また国立大学の教育研究予算の拡充などを望みたい。東京外大は、「留学生支援の会」のサポートを受けつつ、国際化拠点のオンリーワンの国立大学を目指し、次の中期計画期間（平成22～27年度）で試される「機能別分化」のハードルに挑戦していく。

2. ご挨拶

いよいよ活動が佳境に！

会長　中嶋　洋子

すっかり秋になりました、会員の皆様お変わりなくお過ごしでしょうか？

変化の大きい季節です、かなり寒い日もありますから、どうぞご自愛ください。

さて、前号にて本年度の行事予定、予算案をお示しいたしましたが、その後、会員の皆様から特にはご異議の声が届いておりませんので、遅ればせながら本年の活動が本格的に始動します。

すでに春以降、歌舞伎教室への参加、留学生と日本人学生との交流会、地域中学校での“国際理解教育”に、留学生が講師として参加するなど、また、茶道部による七夕茶会を始め各種同好会の活動が順調に進んでおります。

なお、関連記事の中に、“国際理解教育”についての報告があります。“国際理解教育”とは、留学生（主として大学院生）が先生となり、全国の小学生、中学生（高校生も含め）が、国際化の意味、異文化交流などについて学ぶ教育の場です。各国の歴史、文化、言語、日常生活などさまざまな事実や状況を留学生が先生となって説明し、互いに理解し交流するという全国的な取り組みです。

別件ですが、お詫びを申し上げたいことが一つあります。

会報31号（前号）で、5年以上会費のお支払いがなかった方々へのお伺い、今後のご希望を伺う文面に関して、それまでのご協力への感謝の言葉がひと言あってしかるべきとのご指摘を、ある会員の方からいただきました。文章が事務的、機能的に過ぎていたことについて、私自身、ご指摘のとおり、と心からお詫び申し上げます。当会も10周年を迎えましたが、特に設立当初の会員の方々のご協力、会費のお支払いは活動の源泉でした。ここに改めて感謝の意を述べさせていただきます。

3. 活動報告

3－1 歌舞伎見学と懇親茶話会

日時　6月14日（日）　午後2時～6時
場所　国立劇場・グランドアーク半蔵門
参加者数　留学生（14カ国）36名、日本人学生6名
内容　　1・歌舞伎のみかた　2・華果西遊記
　　3・懇親茶話会

感想

1．歌舞伎の日本独特の音色（太鼓・拍子木）を実演して説明、黒子の役割とその実演。舞台の一部としての花道の役目と競り上がりの実演、常磐津と浄瑠璃の三味線の音の違いなどを二人の役者により面白可笑しく紹介された。

2. 市川猿之助の演出による西遊記、スーパーヒーローの孫悟空の活躍が見もの。
物語は、長編だが、蜘蛛の妖怪を退治するエピソードが中心で、衣装も華やかで場面の転換も速く、わかり易く、学生たちは大いに楽しんだと思う。

終了後ホテルのレストランで、お茶とお菓子をいただきながら感想を話し合い、懇親を重ねた。衣装がきれいで展開が速く面白かった、と留学生の感想。
日本人学生は全員が歌舞伎見学は初めて、という。今年初めて日本人学生一緒に参加、費用は大学の学生後援会(保護者の会)が負担してくださった。この場を借りてお礼を申し上げます。　　(杉森　記)

(↑歌舞伎見学で落ち着いた表情を見せる留学生たちと和風姿で参加する井上幹事)

歌舞伎鑑賞教室に参加して

トルコ語専攻1年
入口　愛

外大に入ったからには留学生の友達をいっぱいつくりたいと思っていたのですが、思っていたよりも留学生との交流を持てる場が少なくなかなか友達をつくることができなかったためとても残念に思っていました。また、私自身日本にいながら今まで一度も歌舞伎を見に行ったことがなかったため、今回の歌舞伎鑑賞教室ははじめての歌舞伎が観られるだけでなく留学生との交流もできる、またとない絶好の機会だと思いました。

鑑賞会当日には、集合場所で集まっているときや歌舞伎の開演を待っている間にいろんな国の留学生と話をすることができました。学校の授業やサークルの話だけではなく、日本の学校と留学生の自国の学校との違いについての話などはとても興味深く面白かったです。歌舞伎鑑賞教室では歌舞伎役者の方々が歌舞伎の楽しみ方をわかりやすく面白く解説してくれ、その後の『華果西遊記』も面白い場面がたくさんあり、また衣装も綺麗でとても楽しめました。

鑑賞後のお茶会では留学生と一緒に歌舞伎の感想や大学での生活、日本と留学生の出身国の違いや日本語の難しいところなどいろんな事について話すことができただけでなく、留学生とも仲良くなれてとても楽しく、有意義な時間を過ごす事ができました。
また、今回の鑑賞教室のおかげで一緒に歌舞伎を見に行った留学生が学校ですれ違ったときに声をかけてくれたり手を振ってくれたときは本当に嬉しかったです。

初めて歌舞伎を鑑賞し歌舞伎の楽しさが分かり、是非また見に行きたいと思ったと同時に日本人としてもっと日本の文化・伝統を知りたいと思いました。それだけでなく、普段留学生と交流できる場がほとんどない中で1日じっくり歌舞伎を楽しみながらいろいろな国から来ている留学生と交流できたことがとても嬉しかったです。今回このような機会を設けてくださいました支援の会の皆様には本当に感謝しています。本当にありがとうございました。

3－2　国際理解教育

日時　6月19日(金)
場所　町田市真光寺中学校
主旨　上記中学校より2名の外語大留学生(ネパールのカルキ・プルナ・バハドルさん、内モンゴルの朝魯門さん)が講師として招かれ、同中学校の「第22回国際交流の日」の交流に参加。二人は大学院(研究)生で、日本での生活も長く、「アジアの国を知ろう」とのテーマに沿って充分にその責任を果たした。
(杉森　記)

“けどやっぱり世界は大きい！”
中学生たちの感想

・今まで他人事だったことが今日はみぢかにかんじられるようになった。2・3年生でも、**もっと多くのことを知りたい**です。(1年生)

・外国では日本と違うことがたくさんあるけど、**大きくとらえれば世界という中で一緒**だし共感を得た。**けどやっぱり世界は大きい**。(2年生)

・世界と日本には貿易などだけでなく**たくさんのつながりがある**ということ、また**「国籍」つてなんなのかな**と考える機会にもなった。(2年生)

・先進国がまいた地球温暖化の種を途上国が影響を受けていることにびっくりした。**もう少し広い視野で**いろんなことを見る必要がある。(3年生)

・少しのことで落ち込んだり泣いたりしている私たちよりもっと苦しんでいる子供達がいるということをとても考えさせられる日でした。**友達と遊んだり家族と楽しく過ごしている私たちの時間がどれだけ貴重なのか**を改めて感じました。(3年生)

・私たちは勉強はやらされているものだと思いがちですが、**勉強ができるということはとても恵まれているんだ**なと思った。と同時にふだんなにげなく受けている授業の重みを感じました。(3年生)

(上記中学校の他にも目黒区立第十中学校からも要請を受け留学生が先生として参加し、学校側からも大変喜ばれ、来年も是非、との書状を受けとっています。)

3－3 留学生と日本人学生との交流会

日時　7月24日(金)12時20分～14時30分頃
会場　留学生日本語教育センター　交流室・ロビー
参加者数　留学生50名、日本人学生50名、
　　スタッフ他30名
発表国・地域　台湾、ノルウエー、ネパール
内容

今回も多言語・多文化教育センターと当会との共催で開催され、当日の開会挨拶は同センター長の北脇先生にお願いした。発表する国の留学生とサポートする当該言語科の日本人学生との連携も前回どおり行われた。

当日のメニュー

	台湾：蒸し菓子その他のお菓子、中国茶 ノルウエー：ワッフル、アイスコーヒー ネパール：チキンカレー、アザール、チャ	

いずれも美味しくて好評だった。

発表3国ごとにブースを切りはなし、屋台方式(もしくはアイランド方式)とした。前後2回のプレゼンタイムを設け、各ブースで同時にプレゼンを行った。

所感

8月3日、発表国の留学生と日本人サポート学生、スタッフが反省会を行い下記のような感想および反省点が出された。

開催時期の設定は、大学の定期試験との兼ね合いでなかなか難しい。

当会担当者と日本人学生との連絡がうまくとれなかった、次回からは学生の中でリーダーを決めたほうがよい。

屋台方式は、プレゼンの際に「聞き取りにくい」との難点はあったが、発表者と聞き手の間がより親密になり、親しく話せるという利点もあった。

全体の進行は割合スムーズにできた。中味も回を重ねるごとに濃くなっている。先に食事(軽食のランチとして当会が用意した海苔巻き、いなりずし)をすませたのもよかった。　(森田　記)

(↑熱心に母国ネパールをアピール　日本語の勉強にもなりますと留学生)

多言語・多文化共生論の授業で聞いていたことと交流会の現場

朝鮮語専攻１年
板垣　利奈

7月24日の留学生と日本人学生の交流会に、司会として参加させていただきました。この交流会では、ネパール・台湾・スウェーデンの 3 つのブースで、各々伝統料理をふるまい、文化や習慣などについてまとめたものを発表しました。留学生と日本人学生が協力して準備し、当日の会場も国際色の溢れる活動的な場となりました。

司会の立場で感じたことが、3 つあります。

1 つ目は、「場」を設けることの大切さでした。東京外国語大学とはいっても、日常生活で留学生と日本人の学生が交わる場は思ったほどないものです。しかし、今回このような「交流会」という「場」設定のおかげで、学生同士が互いに打ち解けて話しかけられたようでした。

2 つ目は、留学生支援の会の方や多文化・多言語教育研究センター長の北脇先生、ほか多くの学生以外の方々の活動を間近で拝見して、この交流会に対してより公的な意識で臨めたこと、この活動が学生規模で終わるものではなく、より広い世界に拡大していく可能性と責任を持っていたということです。

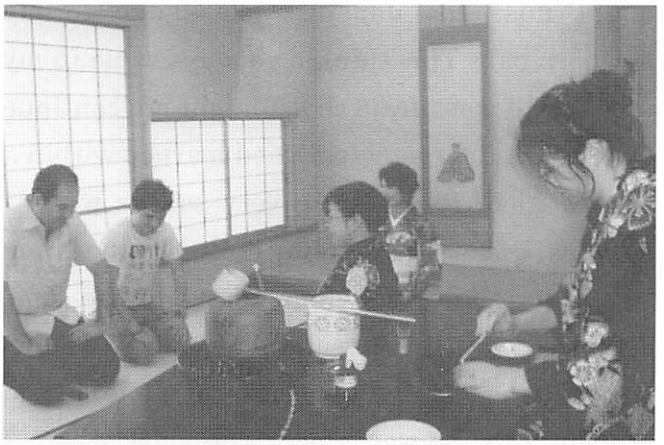
3 つ目は、留学生自身の力です。準備段階では不安な点も多かったのですが、当日を迎え、発表が進行するうちにそんな不安は自然と消えていました。留学生の発表内容の興味深さ、民族衣装の色鮮やかなこと、そして何より、自分のルーツについて誇りを持って語る姿。会場が温まってくると質問も飛び交い、留学生は水を得た魚のように応じていました。

いろいろな言語や文化を持った人たちが共生するためには、マイノリティーが自信を持ってのびのび生活できること。そして彼らを受け入れる私たちであること。そのための「場」が、きっかけとして必要なこと。すべて、多言語・多文化共生論の授業で聞いていたことでした。現場に出て見て、肌で感じて初めて理解するもの、机の上で考えてみればわかること、この発見がこの交流会のすべてだったようにさえ感じました。単なる文化交流の会ではなく、縮小された多言語・多文化世界で、一人ひとりに多くを投げかけてくれたひと時でした。

3-4　七夕茶会

日時　7月7日（火）
会場　学生会館和室他
参加者　留学生48名、日本人学生29名、
　　その他20名
内容
　七夕にふさわしい茶室のしつらえ立札柵総飾りの手前を見学、床飾り、七夕の由来を聞く。
清閑院のきんぎょく冷菓と抹茶をいただく。
学生会館で短冊に願い事を書く。
その他　ゆかたもたくさん用意でき、肌着も準備でき途中で脱いで交替するということもなく時間に制限なく着ていることが出来た。　（三浦　記）

（↑三浦先生を囲んで浴衣姿の板についた留学生たち）



（↑こんな風にお茶を学ぶのは楽しい、と留学生）

以下、留学生の感想です（抜粋）。

初めて茶会に参加したのですが、感心しました。これからも日本の文化と習慣についてもっと調べたいです。(スロバキアの留学生)

はじめてゆかたを着て、日本のチャを飲む、すごくいい体験と思います。日本の茶道についてこれからもっと習いたいです。(中国の留学生)

3-5 日本語広場

My one year Japanese learning and experience

Kalpana Thapa (Nepal)

One year ago I came to Japan. When I came here, I did not know any Japanese language words except some greetings such as ohayo, konnichiwa. A few months later I started to study Japanese in TUFS student support centre, where the family members of students can study Japanese. During one-year period, I had a great opportunity to study Japanese language and culture with three language teachers. They taught Japanese language once per week to me. Those three senseis were very genuine on teaching me. They were very supportive to me during my study period. I never forget their encouragement by providing me study materials, books and their invaluable time to me. Further, since last November, I have become a mother. After that I was worried that I might miss the Japanese class due to my newborn baby.This thinking always came in my mind and I was afraid that I might not continue the class and forget what I had learned within a short period. It made me very sad as well as nervous, because here in my daily life and when I go to hospital everywhere I have to use some Japanese, which is essential to move the life. But it was totally opposite to what I had thought. Abe sensei offered the class where I could go with my baby. It made me very happy and I continued my Japanese class. When I started to go with my son in class, he always made noise and was crying, but sensei always gave me an opportunity to study. She held him when I was doing assignment or writing, and all the way through the class she cared about my son so that I was able to study. Sensei's helping hands and lessons motivated me to study Japanese more and harder. It has also increased my capability in Japanese language. I am grateful to Abe sensei's contribution during this study period.

While I am learning Japanese language with teachers, I have focused my time on watching Japanese programs on TV, which support to increase my proficiency in listening and speaking. They also build the confidence on me that I can understand Japanese.

Further, during this one year, not only I studied Japanese language, but also I had an opportunity to experience an inter-cultural event and share my own culture as well as learn new culture and tradition. This is the first time; I participated the event with international students and teachers, where I was able to introduce my motherland culture and food through the support of a group of Japanese students, my language teachers and TUFS. I enjoyed working with Japanese students; we were able to show the Nepali ladies costume Shari, and introduced the Nepali cuisine along with other countries. During this exchange event, I learned the spirit of group work and importance of language to fill the gap. I am very thankful to my teachers, Abe sensei, Umeda san, and others who have been constantly sources of inspiration for me to undertake this event and complete it. Wherever I go, this precious time and sweet memories will always remain with me.

(訳文)日本語学習と一年間の経験

カルパナ・タパ(ネパール)

私は一年前に日本に来ました。その時は日本語は「おはよう」や「こんにちは」などの挨拶しか知りませんでしたが、数ヶ月後、留学生の家族が日本語を習うことができる外語大留学生支援の会で日本語の勉強を始めました。そこで一年間の間、私は3人の先生に毎週日本の言葉や文化を学ぶ機会に恵まれました。この3人の先生方はとても熱心に私の勉強に協力して下さいました。教材や本を用意して下さり、貴重な時間を使って私を励まして下さったことは決して忘れません。

更に昨年の11月、私は息子を出産しました。この息子の世話をしなければならず、息子は勉強の妨げにもなりますので、もう日本語の授業は続けることが出来ずに短い間に習ったことも忘れてしまうのではないかと心配し、そう思うと不安で悲しくなってしまいました。何故なら、日常生活や病院へ行く時など、どこでも多少の日本語を使わなければならず、それは生活する上で不可欠なものだからです。ところが、私の心配は全く無用でした。阿部先生が息子と一緒に授業に来るようにと言って下さったのです。私は嬉しくて受講を続けることにしました。実際に息子を連れて行くと、息子はいつも音をたてたり泣いたりしていましたが、先生はいつも私が勉強できるように配慮して下さいました。授業中ずっと息子を気遣い、私が練習問題をしたり字を書いたりしている間は息子を抱いていて下さるので、私は勉強することが出来ました。先生の手助けと授業で、さらに一所懸命勉強する気になり、私の日本語も上達してきました。阿部先生には大変お世話になり、感謝しています。

先生方に日本語を習うのと同時に、私はテレビで日本の番組を見ることに自分の時間を集中して使ってきました。これは聴いたり話したりする力をつけるのに役立ちますし、私は日本語が理解出来るという自信もつけてくれます。

その上この一年の間には、日本語を勉強しただけではなく、異文化紹介のイベントで自分の知らない文化や伝統を学び私自身の文化も伝えるという機会もありました。これは初めての経験だったのですが、留学生や先生方やと共にイベントに参加し、日本人学生のグループや日本語の先生や大学の方たちに支えられて、私の母国の文化と食べ物を紹介することができました。日本人学生と一緒に働くのは楽しかったです。私達はネパールの女性の民族衣装であるサリーを着てネパール料理を紹介するということを、他の国々と共に行いました。この交流会の間に、私は共同作業の精神と、隔たりを埋めるための言語の重要性を学びました。先生方、阿部先生、留学生課の梅田さん、その他にも私がこのイベントでの役目を引き受けてから無事終えるまで絶えず励まして下さった皆様に感謝致します。

私が何処へ行っても、この大切な時間と楽しい思い出は私の心にいつまでも残ることでしょう。

タパさんとの日本語広場

幹事　阿部　やよい

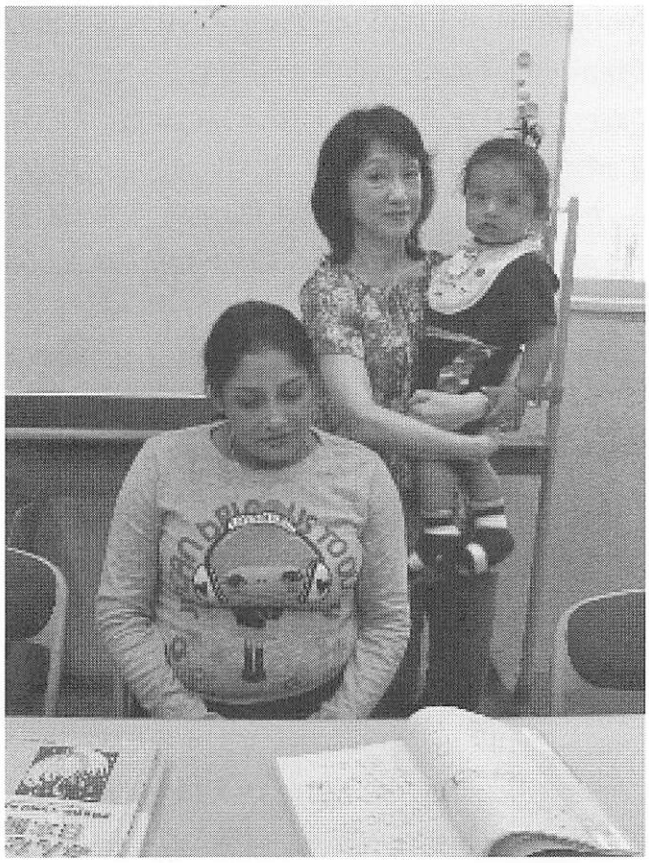
ネパールのカルパナ・タパさんが留学生支援の会へ初めて来たのは昨年の6月で、ブルーの美しい民族衣装が印象的でした。支援の会には日本語を通じて主に留学生の家族の方と交流をする日本語広場の活動がありますので、大学院の留学生であるご主人と結婚して来日したタパさんは、日本語の練習のため毎週通ってくることになりました。初めはほとんど話せなかったため型通りの練習が続きましたが、だんだん慣れて来るとネパールのことやご家族のことなども話してくれるようになりました。

ある時タパさんが「おめでた」であることに気が付きました。日本で出産するとのことで、出産や赤ちゃんに関する語彙なども覚えながら、臨月ぎりぎりまで熱心に勉強に通って来ていました。そして11月に出産。赤ちゃんも連れて来てね、と言って待っていたところ、4月のある日、タパさんがそれは可愛い男の赤ちゃんを抱いて支援の会に現れ、日本語広場の再開となりました。日本語の学習の場は他にもありますが、小さな赤ちゃんを連れて出かけるのは大変です。大学の寮内にあり赤ちゃんが泣いても騒いでも気を遣わなくていい場所として、留学生の家族が気兼ねなく来られる、というのも私達支援の会の存在意義の一つと考えていますので、赤ちゃん連れは大歓迎でした。とは言っ

ても実際にアンムル君が飽きてきて泣き出すと勉強が続けられないので、私が抱いて歩いて静かにしてもらう、ということもよくありました。赤ちゃんとも交流できて私にとっても楽しい時間でした。

交流と言えば、会のイベントの一つである「留学生と日本人学生との交流会」でも、ご主人のカルキさんがネパールについてプレゼンテーションをし、タパさんはカレーやチヤ(ミルクティー)を作り深紅の素敵なサリーで登場して会を盛り上げてくれました。準備段階ではヒンディー語やウルドゥー語専攻の日本人学生とヒンディー語で会話をし、とても楽しそうでしたし、その日本人学生たちにも自分のサリーを着せてくれたので、学生達にとっても楽しい経験になったことでしょう。

最近は日本語も一段と上達し、ネパールのお祭りのことや行事のこと、日本での出来事などを積極的に話し、日本での生活を楽しんでいる様子も伝わってきました。ネパールへ帰っても日本語の勉強を続けて、ネパールで日本語の先生になりたいと言っていた夢をぜひ叶えてほしいと願っています。(なお、タパさんは留学生ではなく、本会報の「留学生の声」欄を執筆しているカルキ・プルナ・バハドール夫人です。)



(↑タパさん写真撮影中もテキストから目が離れません赤ちゃんを抱きながら指導するのは阿部先生)

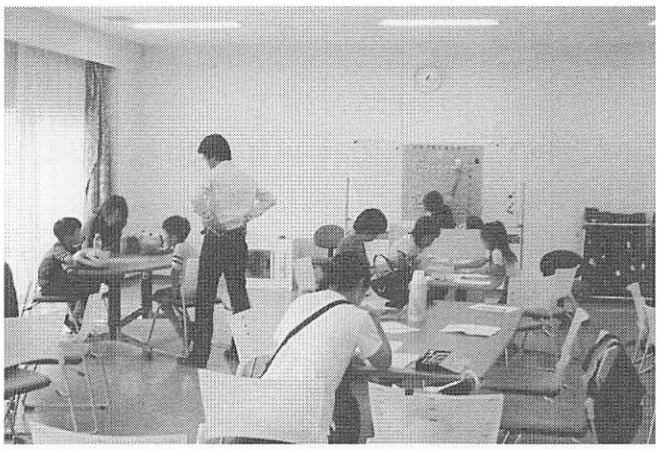
3−6 留学生と小学生のための夏休み将棋教室2009

8月1(土)、2日(日)の両日10時〜15時、国際交流会館2号館交流ホールにて開催しました。

留学生と小学生10数名(父親同席2名、母親同席12名)が参加。指導者は日本将棋連盟棋士七段の中座 真氏、女流棋士初段の中倉 彰子氏。

「素晴らしい企画です。」、「こどもが楽しみにしてきました。」など好評でした。

(会員 佐々木日出男 記)



(↑夏休み恒例の企画になった将棋教室)

3−7 10月期バザー

バザーへのご協力ありがとうございました

去る10月20日(火)〜23日(金)の4日間開催しました留学生支援のための秋期バザーには、様々な品物をご寄付いただき、ありがとうございました。書籍、各種辞書、電気釜、テレビ、電子レンジ、温風器、トースター等の電気製品、寝具、衣類、台所用品、バスタオル、石鹸、洗剤などの日用品、缶詰、お米等の食料品などなど、すべて留学生が必要とするものばかりでした。今回は書籍類が多くありませんでしたが、会報でお願いしていた寝具、電気製品、着物、食器類が沢山ありました。

今回も原則として、電気製品 500 円、他はすべて 100 円(小さな物はまとめて)、書籍は無料としました。集まったのは、この秋学期に入学してきた129名の留

学生達に加えて、これまで何度もバザーを楽しみにしてきた在学生達、総勢で200名ほどでした。留学生達は、友達と一緒に楽しみながら、必要なもの、欲しいものを選んでいきました。毎回人気のある電気釜、寝具類のほとんどは、一日目に多くの学生の手に渡りました。あるフランスの留学生は、羽織、袴を自分用に買い、加えて日本が好きなおばあさんにも着物を探したり、また、イタリアからの留学生は「クール！」と番傘を買ったりしていました。

留学生たちは、いい品物を安価で得られて嬉しそうでした。支援の会にありがとう！また来ます！と、口々に言って帰って行きました。

バザーの収益金は、56,020円でした。

＊毎回、送料もいとわず沢山の品物を提供していただいた会員の皆様には、留学生ともども心から感謝申し上げます。　（梅田　記）

日本に来て6年、バザールがあってよかった！

大学院博士後期課程２年
ハルナザロフ　マムルジョン（ウズベキスタン）

私は東京外国語大学日本に来てもう６年になるのですが、東京外国語大学に学部研究生として入学してから現在に至ります。家族と一緒に来ていますので、最初はあれこれ足りなかったりお金に困ったりして大変でしたが、当時留学生課に大変お世話になったものです。もちろん今でもいろいろとお世話になっています。特に留学生支援の会が開催するバザールは、我々留学生にとって生活必需品を買える上でもってこいの催しです。バザールでは、日本人の方々が家庭で不要になったさまざまな電気品や洋服、役に立つ辞書や単行本、おもちゃなど、日本で生活する上で必要となるものを持ち込んで下さって、それをとても安い値段で手に入れられます。うちに置いてある冷蔵庫や毎日見ているテレビもこのバザールで買ったものです。新品や中古品を買おうとしたら、けっこう高い値段になるものが百円から買うことができ、大変手頃です。電気製品は五百円ですが、それでもやすいです。だって、今使っている冷蔵庫は新品なら二万円もするのですが、バザールのおかげでたったの五百円で入手できました。妻はいつも料理を作るのに必要な機械を何台か買いました。バザールは、特に子供のために楽しみ場となっています。いつも多種のおもちゃが用意されていて、うちの子供が、バザールが実施される日を楽しみにしています。うちにあるおもちゃの殆どは、バザールで買ったものです。いつも楽しく遊んでいます。今回のバザールでは、子供のために子供用のテニスラケットを買って、休日は子供と一緒にテニスを遊んでいます。また、前バザールで買った炊飯器が壊れたので、新しい炊飯器も五百円で変えました。電子レンジも必要でしたが、今回は間に合わなかったので、次のバザールで買う予定です。

外大に来て、「ものを大切にする」ということを新たに感じたような気がします。というのは、要らないものを捨ててしまうより、それを必要としている人に挙げるということはどれだけ人に役立つかは、自分で体験したからです。それは環境にいいことではないかと思います。私の留学期限は二年後に終わりますが、帰国する時、今持っているエアコンや冷蔵庫、テーブルなど、使えるものを全部バザールに揚げたいと思っています。日本に来たばかりの留学生に必要ですから。

バザールがあってよかったです。

VOICE

4. 留学生の声

4－1

Thanks to the International Student Support Association (ISSA) !!

Puruna Bahadul Karuki（Nepal）

Life here is quite different from my previous years. Since I have stayed in Tokyo, my living expenses have been rising these days.

Most prices are rising day by day because of the recession of global economy. This has hit us hard. The meal charges, hostel fee, tuition fee, the prices of text-books and stationary have

gone up. After paying these essential charges, I am left with hardly any money. I realize my limited resources and extra essential costs are a burden on me.

I am working hard on my studies and doing a part time job for my living expenses. While as a graduate student, I have to spend more time for my research and study, I also have to look after my own expenses which add me a big pressure. If I am completely free from economic pressure like my classmates, I am sure I can make more progress than those who are free from pressure. On the other hand, I am learning that there are in life struggles that give me more confidence to fight against contemporary challenges.

During this very hard time, ISSA has been very supportive of me and other students who are facing difficulty in their daily lives in terms of financial and other matters. They have many programs which support and provide opportunity to study other languages and cultures and exchange events. They also provide a lot of information regarding local culture and customs. There are several programs which ISSA conducts and I had many opportunities to participate in them. Firstly, through the ISSA, I have joined several teaching programs where we had the opportunity to study their language and culture and teach them our own cultures and languages which fill the gap between local community and international students, and boost our understanding of different cultures and customs. Secondly, ISSA provides exchange events during festival time and tours of historical places which are quite expensive for students to go by themselves.

These places are very useful to the younger generations to understand the Japanese history and tradition. Thirdly every semester ISSA conducts the bazaar which helps a lot of the foreign students where we can buy many things such as stationary, daily use goods and electric appliances. This helps students to reduce their living costs. This is very good act conducted by ISSA. Lastly ISSA provides Japanese language lessons for the family of students. Through this, the family members of the new comer students can grasp the knowledge of Japanese language which makes their life more comfortable. ISSA also provides classes of the tea ceremony, flower arrangement etc.

Overall, ISSA has been supportive of the international students but it should more open up. I am very thankful to the ISSA which provided many opportunities to participate in their programs where I have learned Japanese culture as well as I had opportunities to contribute to the local community presenting about Nepali language and culture.

（訳文）

外国語大学留学生支援の会の皆様に感謝！！

大学院国際協力専攻ＰＣＳコース
カルキ・プルナ・バハドール（ネパール）

私のこれまでの生活と違って、東京での生活はこのところ、とても費用がかかるようになった。世界的景気後退のために物価は上がり、私たちの生活は打撃をうけている。食費、住居費、授業料、教材費などが上昇した。これらの必要経費を払うと、お金がほとんど残らない。私には必要経費が多いことと予算が少ないことが大きな重荷になっている。

私は、一生懸命勉強をしているし、その勉学費用を得るためのパートタイムの仕事をしている。大学院生として、もっと多くの時間を勉学、研究に費やすべきだが、自活する必要があることが精神的に大きなプレッシャになっている。もし友人達のように財政的に恵まれていればもっと勉学が進んだと思う。しかし一方では、人生には、今直面している問題と戦う自信を得るために役に立つ苦しみがあるということを学んでいる。

このような状況の私や、私と同じような状況の留学生を、支援の会は支えてくれている。

そして色々な行事や、日本語などを学ぶ機会、地域の情報などを提供してくれている。私もそれらのプログラムのいくつかに参加している。一つは、地域の学校での国際理解教育プログラムで、自国の紹介をする授業である。このプログラムは、地域に住む人々と留学生を連携させ、彼らが互いの文化・習慣を理解するのを助けるものである。二つ目は、支援の会によるお祭りへの招待や、留学生にとって自費で行くには費用が高い、史跡見学への招待である。史跡見学は、若者にとって日本文化や伝統を理解するのに、とっても役に立つ。三番目は、各学期のはじめのバザーで、そこでは色々な学用品、日用品、電気製品など必需品すべてが安く手に入る。これは、留学生の生活費削減に非常に有益だ。最後に、支援の会は留学生の家族に日本語のレッスンを提供してくれる。このプログラムを通じて、新入生の家族は日本語の知識を得て、日本での生活をより快適なものにすることが出来る。これのみではなく支援の会は茶道や華道のクラスも提供してくれる。

このように支援の会は留学生をずっと支援して来たが、もっともっと活動を広げて欲しい。私は、これまでネパールの言語・文化を地域の人々に伝える機会と共に、日本文化を学ぶプログラムに参加する多くの機会を与えてくれた支援の会にこころから感謝している。

4－2

すばらしい東京外国語大学に学ぶ喜び

日本課程日本語専攻 3 年
（東外大中国留学生会代表）沈　永日

私は外国語で通訳の仕事につきたいと考えたことが留学に繋がり、縁があって2001年11月に日本に留学することになりました。当初日本語学校で日本語を学んでいましたが、高度な日本語能力を身につけるために、東京外国語大学に進学することを決めました。しかし、現実は厳しく 3 度目の入試試験でやっと合格し夢である東京外国語大学に入学（国士舘大学中退）することができました。

入学して強い印象を受けたのは先生方々の学問を追及する真剣な姿勢、何よりも先生方々が学生一人一人に対する思いやり、学業・生活に対するきめ細かいご支援は私だけではなく、留学生皆さんの心に刻まれていると思います。私個人としても、2006 年父が脳出血で亡くなったことにより、夢である東京外国語大学に入学したものの、経済的な重い負担、精神面での苦しみにより思いどおりに勉強に専念することができませんでした。その時日本課程・留学生課の先生をはじめ留学生支援会の方々のご支援により、一番苦しい時期を乗り越え勉強に専念することができましたし、留学生会の友好交流活動にも積極的に参加することができましので、感謝の気持ちで胸いっぱいです。

特に、留学生支援の会は毎年留学生ためにバザーを開催し、各種辞書を含む日本語学習書籍を無料で、日常生活用品など様々な物品を大勢の留学生に特別に安い価格で配布し、経済面で困っている学生に対しては緊急貸付金を貸してあげることによって、学費を払えず、途方に暮れていた私を含む学生達が生活難を乗り越えることができました。今年 3 月には、世界金融危機の影響で、外語大の留学生の学費、生活全般に深刻の影響が出ている中、留学生緊急支援奨学金をいただきましたことについて、全私費留学生を代表し学長をはじめとする先生方々に心からお礼を申し上げます。

私はこんな素晴らしい学校、先生方々をであったことを自負しています。この思いは私だけではなく、全留学生も同じ思いをしていると強く信じています。これからは、今まで以上に学業に専念し、また留学生と一緒に積極的に友好的な交流活動に参加し支援してくださった方々に恩返したいと思います。

VOICE

5. 会員の声

全会員の皆様、この「会員の声」欄へのご投稿をお待ちしています。

会長　中嶋　洋子

皆様のご協力を得て、当会も今年で 10 周年を迎えることができました。

それにつけましても、今まで会報等をとおして会の基本方針、目標、そして具体的な活動内容などをお示ししてきましたが、果たして本当にこれでよいのかどうか、本当に留学生の心に残る支援になっているのかどうか、私は常に自問自答しています。

そんなわけで、会員の皆様のお考え、ご感想、ご叱責、ご批判などを寄せていただければ大変嬉しく思います。随時、この欄に掲載させていただきます。私自身の参考にさせていただきたく、また、ささやかながら会員同士の交流の場にもさせていただければと思います。

加えて、会員の皆様の国際交流、異文化交流などに関するご経験、例えばホストファミリーの体験、海外駐在の体験、短期長期の海外生活の体験、ご自身の留学体験その他から得たご感想、お考えなどをどしどしお寄せくだい。

従来、この欄は、幹事、幹事協力者等身近な会員の方が執筆しておりましたが、その輪をもっと広げて全会員の方々に書いていただきたいと思います。

締め切りは特には設けません。

字数は原稿用紙 400 字 2 枚以内（多少長くても短くても対応可）

宛先は、会報最後のページにあります谷川・梅田宛送付いただくか、メール nakajima-yoko@nifty.ne.jp 宛添付でお送り下さい。

ご入会、ご寄付
ご協力いただき、ありがとうございます

新規加入者

■　一般会員（敬称略）　漆崎隆司、岡本一郎、久我暢子、小笹妙子、鴻野初恵、田尻剛章、栃尾純子、西牧たかね、村上光一

■協賛会員（敬称略）　星野隆

会員寄付者

■一般寄付（平成21年5月16日～10月19日）（敬称略）

浅野偕子、池谷満、池北雅彦、池田修晤、板久恭子、市川友子、市川富美子、井手真知子、井上東一、猪鼻光子、大塚定、大原泰樹、大森堅五、角田秀夫、片岡護、北村みどり、挙市玲子、小島照恵、五島大介、笹岡太一、佐藤桂子、新堂睦子、鈴木文子、鈴木正道、千田千鶴子、田代久美恵、頼母木久代、中川操子、中島正隆、野中千恵子、花澤聖子、藤井隆雄、星野隆、本望春夫、村上光一、望月征美、簗田長世、渡辺晋太郎

■緊急貸付基金寄付（敬称略）

浅野尚文

万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節は、当会までお知らせ下されば幸いです。

留学生支援　**会員の皆様ひとりひとりが留学生の笑顔をつくります！**

平成 21年度　会費納入のお願い
随　時　受　付

平成21年度も**引き続き**会員としてご支援いただきたく、本年度会費を同封の振込用紙にてお振込下さいます様、お願い申し上げます。（すでにお振込みくださった会員の方には振込用紙は同封されておりません。）

振込用紙にメールアドレスをお書き添えいただければ幸いです。

ACTIVITIES

6. これからの活動

1 国会見学・江戸東京博物館見学 ちゃんこ鍋をかこむ懇親会

日　時　2009年11月29日(日)
13時～20時ごろ

会員の皆様のご参加をお待ちしています。
参加可能な方は、当会または下記までご連絡下さい。
042-330-5183(火、水、金のみ、梅田まで)

2 国際交流の夕べ 2009年12月18日(金)

今年も！
恒例の留学生との交流を是非お楽しみください。
会員の皆様のご参加をお待ちしています。

日　時　2009年12月18日(金)
18時～20時
場所　大学構内学生会館

当日のお手伝い参加可能な方は、当会または
下記までご連絡下さい。
042-330-5183(火、水、金のみ、梅田まで)

幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。
平成21年　7月　19日(日)
平成21年　10月　18日(日)

ご意見、感想など、会報への 投稿募集 どしどしお寄せ下さい

当会へのご意見、ホームビジットやイベントに関しての
感想文など、会報への投稿をお待ちしております。
お気軽にお問い合わせ下さい。

Have a wonderful Christmas.

Have a wonderful Christmas.

Have a wonderful Christmas.

＜お問い合わせ先＞
〒183-8534 東京都府中市朝日町３－１１－１
東京外国語大学 留学生課気付（谷川、梅田）
ＴＥＬ：０４２－３３０－５１８３
ＦＡＸ：０４２－３３０－５７６２
Ｅ－ｍａｉｌ：tufs-issa@nifty.com
http://homepage3.nifty.com/is-tufs/

©Copyright 2009, TUFS International Student Support Association

２０１０年２月号

No. 33
年３回発行

東京外国語大学 留学生支援の会

Since 1999

会報

東外大“アゴラ・グローバル”へ
ぜひ一度、遊びにいらしてください！！ （詳細は3ページへ。）

Pick Up Event

毎年パワーアップするのは、志高い東外大留学生だからこそ・・・
“総勢200名”の参加者が互いに交流を楽しむ国際交流事業
（詳細は3～5ページ以降をご覧ください。）

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5759 FAX 042-330-5762
E-mail tufs-issa@nifty.com http://homepage3.nifty.com/is-tufs/

IN SIDE

Page 1. 1. 巻頭言
Page 3. 2. ご挨拶
Page 3. 3. 活動報告
3－1 国際交流事業
3－2 留学生と日本人学生の交流会
――各国文化紹介：お茶とお菓子を通して
Page 8. 4. ホームステイ
スコットランドからのお客様
Page 9. 5. 留学生の声
留学生短期国際交流員事業
Page 10. 6. 会員の声
中学生に自転車旅を語ったら
Page 12. 7. これからの活動
鎌倉見学、4月期バザー他

FOCUS

1. 巻頭言

留学生と小学生のチャリティー国際交流の会

総合国際学研究院教授　望月　圭子

2009年11月21日（土）、東京外国語大学は、晴天に恵まれ、外語祭、オープンキャンパスで、全国から集まった受験生や近隣地域の人々で、大変な賑わいでした。こうした中、国際交流会館2号館交流ホールで、「小学生と留学生の国際交流の会」が、留学生支援の会、スペイン科を卒業した相馬円香さんが主宰する、国際化教育企画のソモス&カンパニー、東外大の留学生が英会話・フランス語・中国語を教える語学塾リンガハウス共催で行われました。

「小学生のための国際理解教育」を外語祭、留学生との交流に結びつけることができたのは、相馬円香さんと、アラビア語学科の卒業生の永桶紘子さんの発案によるものでした。お二人の発案に、語学塾リンガハウスのスタッフ、住谷和樹さん（フィリピン語3年、実行委員長）、松田陽子さん（ポルトガル語2年）、高杉寛子さん（中国語4年）、里直美さん（英語2年）、東京

学芸大学で小学校教諭の勉強をしている中岡洸平さんがボランティアで準備を進めました。

この交流会は、ミャンマーの孤児院に孤児の食費・教育費を寄付するチャリティーでもありました。というのも、ミャンマーからの留学生ソーソーミンさん(日本課程2年)が、故郷の孤児院に食費・教育費を送る「知の力」という会を四人のミャンマー人留学生と組織していることを以前からきいていたからです。

国際交流の会は、朝10時に、ソーソーミンさんのミャンマーの孤児院の現状説明から始まり、400円あれば孤児一人の一ヶ月分の食事代になるという話をききました。そこで、海外の雑貨チャリティーバザーコーナーでは、海外の雑貨を全て400円均一としました。その後、子供たちと保護者は、フィリピンの語劇を鑑賞し、26専攻語が出店する料理店で好きな国の料理を思い思いに楽しみました。

午後3時からは、ティータイム交流会として、台湾、アメリカ、イギリス、韓国のお菓子やイギリスのミルクティー、中国茶(龍井茶)、韓国の甘酒を囲んで、留学生による故郷紹介のプレゼンテーションが始まりました。魏登輝さん(日本課程2年)が洛陽の紹介、許臨揚さん(修士課程1年)が中国のお茶の紹介、レイチェルさん(日本課程1年)がオーストラリアの紹介、ロンドン大学SOAS からの国費研究留学生ジェニファーさんがスコットランドの紹介を、パワーポイントで行いました。こうしたパワーポイントの資料は、東外大の日本語口頭表現の授業で留学生たちが発表したものを用い、留学生たちも、一般のお客様に紹介できる機会に恵まれ、大変意欲的でした。そのほか、ロンドン大学 SOAS の交換留学生クリストファー君が子供たちからの質問に答えるコーナー、韓国留学生料理店メンバーによる韓国の甘酒紹介もありました。

たまたま休暇で台湾から東京に遊びに来ていた東外大修士修了で、現在台湾銘伝大学で日本語を教えている楊煜雯さんが、台湾からこの交流会のためにダンボールで運んできてくれた台湾のお菓子「太陽餅」(太陽の形をしたパイ)、「綠豆糕」(はるさめの材料緑豆で作った緑色のお菓子)、「鳳梨酥」(パイナップルケーキ)、台湾の高山烏龍茶の紹介をして、皆で試飲・試食しました。中国語では、「餅」は日本のおもちとは違いパイを指すこと、「糕」はケーキ、「酥」はさくさくした触感のお菓子を指すという紹介がありました。

当日は、オープンキャンパスで、私は日本課程の体験授業を担当しましたが、その際、受験生にこのティータイム交流会へ誘ったところ、中国や韓国からの10名程度の受験生たちが、日本課程の先輩留学生たちの発表を聞き、交流の輪に加わりました。オープンキャンパスでの体験授業を終えた同僚の狩野キャロライン客員教授(英語専攻)、高島英幸教授(英語教育)も、飛び入りで参加してくださり、英語の歌や踊り、軽快なトークで交流会は大変盛り上がりました。中嶋洋子会長、梅田由美子さん、留学生支援の会幹事の方々、近隣のボランティアの方々も会を支えていただき、またアクセサリーデザイナーの天笠かおるさんも、子供たちのためにミニアクセサリー教室コーナーを開いてくださり、お世話になりました。入試課の小笠原さんも、この交流会のお客様用に、大学案内、大学記念グッズを用意してくださいました。この場を借りて皆様にお礼申し上げます。

当日の寄付、バザーの収益は、10,720 円となり、ミャンマーの孤児院に寄付しました。唯一残念だったのは、当日が折り悪く府中市立小学校の授業参観・作品展示会で、参加した小学生たちは、学芸大学付属、早稲田実業、明星、成蹊、双葉小学校といった国立・私立小学校に通う児童だったことです。来年度は、地元の小学校やこども会と早くからタイアップして、留学生との交流の会が開催できれば理想的だと思いました。

ともあれ、のべ70人の皆さんが集い、国際交流の会をもち、僅かながらミャンマーの孤児院に寄付ができたことは、留学生にも、子供たちにも、私たちにも、大変有意義で、印象深い会でした。

来年度もぜひ継続していきたいと考えています。

(↑多くの小学生から質問が飛び交いました)

2. ご挨拶

“AGORA Global”？！

会長　中嶋　洋子

暦のうえの立春は過ぎたとはいえ、寒い日々が続いていますが、会員の皆様はお変わりなくお過ごしでしょうか？

さて、大学構内に新しい施設が完成しました。これは異文化交流の施設ですが、「アゴラ・グローバル（地球の広場）」と命名されたそうです。まさに外語大にふさわしく、地球上のさまざまな異文化の体験、異文化の理解の場となるよう想いの込められた施設名、ですね。

当留学生支援の会は大学内の組織ではありませんが、私たちの活動は、異文化交流にこそその原点がありますし、そのうえ、構内の一等地（研究講義棟の前、図書館の横）にありますこの施設の一隅に名を連ねたいとかねがね思っていました。この度、留学生課をはじめ大学側のご理解をいただき、今後の活動の拠点をこの施設内に置けることになりました。大学のご配慮に対して心より感謝を申し上げます。

今までの当会の連絡室は、国際交流会館（学生の寮）内にありましたが、前に会報でもお知らせしましたように、構内の中央（研究講義棟）から遠く、私たちは“陸の孤島”と呼んだりしておりました（それでも構内に場所をお借りできるだけでもありがたいことと思っていましたが）。なにより多くの留学生に当会の活動の情報が届きにくいことを案じていました。

春からは、留学生課の留学支援（日本人学生の留学を支援する部門）の方々と隣り合わせで私たちの活動を続けることができるようになりました。

一階にはホールがあり、今後は留学生と日本人学生との交流会（各国文化紹介と称して毎回３カ国の留学生がお茶とお菓子などを通して自国の文化を紹介、互いに交流する）をはじめ様々な活動がそこで展開できると思っています。

留学生支援の会の活動が本当に留学生のためになっているのかどうか、本当に留学生に喜んでもらえているのかどうか、単に“おせっかい”だけではないのか、と私は常々自問自答していますが、今回、アゴラ・グローバルに場をいただいたことをきっかけに、当会の存在価値が確実なものとなるよう、気をひきしめて活動の充実に一層励みたいと思っています。

3.　活動報告

3－1　2009年度国際交流事業「日本文化交流会」と留学生友好交流のための懇談会「国際交流の夕べ」が楽しく、賑やかに開催されました！！

留学生にとって毎年楽しみの、大学と留学生支援の会共催の国際交流事業が、2009年12月18日（金）午後１時から８時まで、大学会館と国際交流会館交流ホールで開催されました。

第一部の「日本文化交流会」では、恒例のごとく、「着物体験教室」、「華道教室」、「茶道教室」、「将棋・囲碁教室」、「折り紙・和紙人形・墨絵教室の」５つの体験教室を開きました。留学生たちは、自分の興に任せそれぞれの教室に参加し、初めて体験する日本文化を楽しみました。着物、お茶，墨絵等々、楽しく経験する中で、留学生達は日本をより理解し、日本にもっと近づけたと思ったことでしょう。

第二部の留学生の交流・友好を広げる場である懇談会**「国際交流の夕べ」**には、日頃留学生を支援、協力してくださっている来賓の方々、大学関係者と留学生、総勢200名ほどが参加し、互いに交流を楽しみました。プログラムの最後の方は、自然にダンスの輪が出来て、会場は盛り上がり、予定の２時間はあっという間に過ぎてしまいました。

以下にその日のプログラムと留学生の感想文を紹介いたします。（梅田　記）

プ　ロ　グ　ラ　ム

第一部

18:00開会

挨拶　　東京外国語大学・副学長　富盛　伸夫
　　留学生支援の会・会長　中嶋洋子

来賓紹介

乾杯　　東京外国語大学・理事　宮崎　恒二

第二部

18:25アトラクション紹介

司会　　チョイ・アンジン（日本課程４年）
　　ハック・セレイ（研究留学生）

① **カンボジアの民族舞踏・・・**
　　エプ・スレイニアン（ISEPTUFSカンボジア）

② **ポップソングメドレー・・・**
　　テッド＆ISEPTUFSブラザーズ

③ **グアテマラの踊り・・・**
　　モンテロソ・レオネル（研究留学生グアテマラ）

④ **アカペラ・・・**アカペラ同好会LINES

⑤ **福引き・・・**留学生支援の会

19:50閉会

（共催：東京外国語大学、留学生支援の会）

（↑踊りはとても盛り上がり、留学生パワーが頂点に？！）

大・大・大満足の着物体験

ＩＳＥＰ（タイ）　上辻　沙有理

世界中に有名な日本の伝統的な文化の一つである「着物」。一般の留学生にとって、着物を手に入れることはできないと思います。なぜというと、外国人は自分で着物をきれいに着るのは難しすぎて、お値段も気になっているからだと思います。また、手に入らなくても今日のようにきれいな着物を着て、髪型までやってもらったらお店に行くとすると、少なくとも七千円もかかってしまうでしょう。それでも、１２月１８日留学生のための無料着物体験機会があると聞いて、最初驚きました。登録するとき一人で行きましたので、知らない留学生の名前を見たとき「当日は、どうなるかな。」とずっと楽しみにしていました。本日他の留学生の方と着物体験を参加することができました。この機会のおかげさまで本当にいい思い出ができました。初めて知った留学生の方と留学生の友達がもっと仲良くなりました。また、参加者（スタッフと留学生）とご一緒にたくさん写真撮影することもできました。私によって、大満足です。

着物を着せてくださったスタッフの皆様、一生懸命留学生のため次次と頑張り続けて、最後の留学生まで髪形も着物もきれいしてくださった様子を見て、私は本当に感動しております。

スタッフの皆様、心より誠にありがとうございました。

初めて将棋—駒との戦い

留日センター留学生（モンゴル）
チュナグ

私は去年の４月に日本に来てから色々なことを経験しております。外国語大学の日本語教育センターで日本語を勉強しながら、日本文化が少しずつわかるようになりました。

国際交流会の時、私は日本の習慣を感じてみようとしてゆかたを着てみて、茶道に参加しました。その時、日本のゲーム（将棋と碁）を先生が教えていました。私はいつもゲームに興味を持ってい

ますから説明していただきました。

将棋は元々インドから、碁は中国から日本に来ましたが、この二つのゲームに日本の文化も多少映っていると思います。私は国にいた時、碁は少ししかと将棋はぜんぜん知りませんでした。そして、国際交流会の時将棋を初めて習いました。私は国でチェス（西洋将棋）をやったことがあります。将棋を最初見るとチェスと似ていました。しかし、将棋を指してみると、違いがたくさんありました。例えば、チェス盤が8x8なのに、将棋盤は9x9でした。また、一番大きい違いは、一度取った駒を盤に再び使うのが可能だということだと思います。さらに、一番難しいと思ったのはその駒のことです。将棋の駒は形が大体同じで、上に書いてある文字によって区別できるものですが、漢字を学んでいる私にとって書道のように書いた文字が区別するのに大変でした。相手の駒の文字も反対側から見ると読みにくかったし、困りました。しかし、違っていても将棋に興味があって、国際交流会の後から、毎週水曜日先生と将棋を指すようにしました。

碁や将棋やチェスなどはどれも人間にある問題を多数の観点から考える能力を増大させてくれると思っています。だから、自由な時間があれば将棋や碁を指してみませんか。

3－2 留学生と日本人学生の交流会

—各国文化紹介：お茶とお菓子を通して—

日時　２０１０年1月２２日（金）
１２：２０～１４：３０

会場　国際交流会館　２号館交流ホール

参加者数留学生約６０名、日本人学生約６０名
その他：約４０名

発表国　オーストリア、グアテマラ、スロバキア

内容　◎今回も多言語・多文化教育研究センターとの共催で行われ、開会挨拶は北脇同センター長にお願いした。発表する留学生とサポート役の日本人学生、さらに彼らと留学生支援の会担当者との連絡・調整において、多文化コミュニティ支援室の鈴木さんに前回以上の協力をいただいた。

メニュー　オーストリア　：　カイザーシュマーレン、レッドブル（その場で焼きながら提供。リンゴソースは前日作製）
グアテマラ　：　タマレス、オルチャータ（発表留学生の知り合いの女性に来ていただいて前夜遅くまでかかって作製）
スロバキア　：　スポンジケーキ他（市販のものを当会で用意）
◎前回同様、発表国ごとにブースを設置する「屋台形式」で、２回のプレゼンタイムに同時に発表を行った。

所感　２月１日に多文化コミュニティ教育支援室において、サポート役の日本人学生および鈴木さんと当支援の会担当者で反省会を行い、下記のような感想・反省点が示された。

◎今回の会場は、物品の運び込みには便利だったが、若干狭く、動きにくかった。発表者、司会者の声もこもりがちで聞きとりにくかった。電力（お茶や料理の保温、発表のために使用したパソコンなど）もオーバーした。

◎発表者に依頼する時点で、何と何をどのようにしてほしいか、改めて確認する必要がある。

◎特にグアテマラ班は、メニューが本格的なものとなったため留学生には調理不可能で、知り合いの女性２人に大きく依存しなければならなかった。日本人学生側としても個人的には貴重な体験ができ、得るものも多かったが、ここまで第三者を巻き込んでいいものか疑問を感じた。当方の担当者の負担も大きかった。

◎材料の調達に関しては、府中近辺で入手困難なものもあり、さらに連絡がうまくいかなかったこともあって、かなり時間をとられた。

◎そもそも学生に料理、お菓子を作らせること自体に無理があるのではないか。特に「自分たちで作って紹介したい」という場合は別として、基本的には「お菓子と飲み物は当会で用意しま

すから、プレゼンに集中してください」という形でもいいのではないか。

◎開催時期をもっと柔軟に考えなおせないか。

◎何をもって「交流」とするのか、「交流」の位置づけがあいまいな気がする。

◎以上のような感想、反省については、次回幹事会（2月21日）でなお検討し、次の交流会のよりよい方向を考えたい。（森田　記）

（↑母国の衣装を着て、アピール満点の笑顔が印象的）

Promoting Mutual Understanding Through Cultural Exchange

Leonel Monterroso
(Research Student from Guatemala)

On January 22, 2010, I had the opportunity to participate in an intercultural activity (presentation of country's traditional food and culture) at Tokyo University of Foreign Studies. The experience was inspiring, educational and fun at the same time and I would like to cover and share with the reader three aspects/lessons I learnt through this experience. First, the activity gave an opportunity to share my country's culture and traditions. Second, I was profoundly proud and, at the same time, honored to have the chance to represent my country and make it known to others. Third, through this activity I could also learn about the culture and traditions of other participants, which gave me a different perspective of the diverse cultures represented at this institution.

Indeed, I was very pleased and excited to share with the public and fellow students the gastronomy and cultural aspects of my country, Guatemala, as I had the opportunity to prepare (of course, with the help my fellow citizens) a succulent and traditional Guatemalan dish (tamales), which is very rare to have in Japan given that the main ingredients can be only found in Guatemala. Therefore, through this activity I had the privilege and opportunity to share with others the things Guatemala has to offer (especially its cuisine).

Without a doubt, the experience was gratifying and enriching and it made feel proud of my heritage (as a Guatemalan), for which the intercultural party provided the means to really value my own culture.

Lastly, not only did I learned more about my own culture but also I had the chance to interact and learn from other participants/presenters (concerning their own culture and cuisine) which was absolutely enriching.

In sum, the event held proved to be an enriching and; indeed, intercultural experience. Undoubtedly, intercultural parties/cultural encounters present the opportunity to strengthen cultural ties and mutual understanding.

（日本語訳）

文化交流を通じて相互理解を深めよう

グアテマラ研究生　レオネル・モンテロッソ

2010 年 1 月 22 日、外語大で、私は伝統的なお茶とお菓子を通じて母国の文化を紹介する、文化交流会に参加する機会を得た。これは、示唆に富み、教育的で、同時にとても楽しい経験だった。この経験を通じて私が学んだ三つのことを、これを読んで下さる方々にお伝えしたいと思う。

第一に、この活動が、私の国の文化と伝統を皆と共有する機会となったこと、第二に私が自分の国を他の人に紹介して知ってもらう機会を得たことをとても誇りに思ったこと、第三に、同じ場所で紹介された他の二カ国の文化と伝統について学び、新たな違った見方をすることが出来たことである。

この日私は、グアテマラ人の友人と、オルチャータという飲み物とタマレスというグアテマラの伝統的な食べ物を用意した。これは日本ではほとんどなじみがなく、材料もグアテマラでしか見つけられないものであるが、外大の仲間と一緒にグアテマラの文化の紹介をし、参加者みんなとおいしい料理を愉しむことができ、とっても嬉しく，気持ちよかった。　この活動を通じて、わたしはグアテマラ人だからこそ出来る特権をもつことができた

疑いもないことだが、この経験は、私の心を豊かにし、満足させてくれた。同時にグアテマラ人として受け継いできた文化を誇りに思った。これも、この文化交流会が自分の国の文化を再認識する機会を与えてくれたおかげである。

最後に付け加えたいのは、私は自分の国の文化を再認識しただけでなく、他の二ヵ国の発表者達と交流し、彼らの国の内容豊かな文化を学ぶ機会を持つことが出来た。

結論を言えば、このようなイベントは、相互理解や文化的な絆を強める貴重な場を提供してくれるということである。有意義な会であった。

交流会にはじめて参加して

ドイツ語科・１年　佐々木　風人

今回初めて参加させていただきました。

参加する前は、「留学生交流会」の目指すものや、考え方に正直いろいろな疑問がありました。

しかし、実際に参加してみると、頭で色々考えていたこととは違う視点も持っている自分がいました。

前日の晩、寮でみんなで一緒に当日の食事の準備をしたときは、色々話す中でその場で教えてもらったスペイン語やイタリア語を使ったり、留学生の日本語の宿題を手伝ったりと本当に楽しい時間を過ごしました。

「今度ドイツ語教えてあげる！」「ドイツのランチパーティー開こう！」と言ってくれる留学生の友達もできました。

そして、留学生ではない友達や先輩の以外な一面や良さを再発見することもできました。

頭でぐるぐる考えるのも大切だと思いますが、この会に参加することで得られた人とのつながりや一緒に過ごした時間はかけがえのないもので、僕自身はとても楽しかったです。

これからもっとたくさんの人が携わって、もっと素晴らしい会になっていくような気がして、わくわくします。

ありがとうございました。

日本人学生と留学生の交流会に参加して

スペイン語専攻４年　田村かすみ

今回は、私にとって初めて参加することになった交流会でした。準備を進めるうちに、様々な問題にぶち当たりました。留学生との連絡がうまく取れない、直前になってのレシピの変更、留学生の友人にまで手伝いを頼まなければならなくなった状況、前日夜遅くまでかかってしまった準備、などです。

これらの問題を、留学生、日本人学生、支援の会や多文化コミュニティ教育支援室のスタッフのみなさんと力を合わせながら、何とか解決する過程で、お互

い深く知り合うことができたことは、嬉しかったです。また、当日、たくさんの来場者から「おいしかった」との声を頂いたことは、非常に大きな経験になったと思っています。

しかし、当日は、日本人学生と留学生が、お互いに話をする機会は少なく、ただ料理を食べるのみになってしまいました。どのような「交流」を目指すのかという会の目的について、もう一度問い直すべきだとも思いました。

本学に在籍して4年目ですが、確かにいわゆる「留学生」と「日本人学生」が知り合い、関係を築くことができるような機会は少ないと思います。それゆえに、この会が果たす意義はとても大きいと思うし、だからこそ、より良い会の形を模索することが大切なのではないかと思いました。

EXPERIENCE

4. ホームビジット＆ステイ

スコットランドからのお客様

会員　松下　宗柏

スコットランド・グラスゴー出身で，ロンドン大学院に在籍中の Jenny Allan さんが当寺を訪れたのは、昨年３月末のことだった。ＩＳＥＰによる留学生ではなく、研究生としての来日、留学期間は２年間。帰国後に執筆予定の博士論文は、「ファッションの歴史に現われた日本女性の自己表現」というようなテーマを考えているという。

そのテーマから分かるように、とてもファッション感覚のいい女性で、特に洗練されたマフラーのあしらい方が印象的だった。女性一人ということなので、二間続きのお茶室をそれぞれ寝室と居間として使ってもらったが、その部屋のあつかいも、また美しかった。家内も近所の人も、「大切に育てられた躾けのよく行き届いたエレガントな人だ」と好感をもち、スコーンやショートブレッドなどスコットランドのお菓子など話に花が咲いた。やはり躾けのいい人は大切にされるというのは、世界共通のことであるに違いない。

そのホームステイで特記すべきことは、二人の女性が案内をかって出てくれたということだった。国連協会主催の英語クラスで出会った、大学の事務局で働いている女性と聖心女子大学に進学するという高校３年生で、春休み中なので時間がとれるからという申し出だった。２人は Jenny を、箱根周遊ドライブに誘ってくれた。彼女にとって若い世代の日本女性と会話を楽しむ気楽な一日だったと思う。

そして、８月、来日した母親の Margaret と妹の Charlotte といっしょに再訪してくれた。お母さんは幼稚園の園長先生をしているという、元気で明るい女性、太極拳を学んでおり、仏教や禅に探求心旺盛。妹は思春期の中学生とあって内気だったが、とても気立てのやさしい女性だった。Ｊｅｎｎｙは、家族旅行のほのぼのとした雰囲気の中にも、ガイド役として細やかな心配りをしていた。

なじみの天麩羅屋さんに案内した時、目の前で揚げられる天麩羅を前にレシピなど質問すると、ご主人が英語をまじえてユーモアたっぷりに説明し、大いに盛り上がった。また、お寺の門前に、自宅を古民家風に改造して、ミニ・レストラン「ガーデン・ベルス」がある。女主人の御招待に応じてうかがうと、部屋中に飾られた民芸品に興味深々、手作りの料理と会話を楽しんだ。

これから京都旅行だということで、お抹茶のいただき方、お寺や神社をお参りの伝統的作法を紹介したが、それらの作法がとても役に立ったという手紙が届き嬉しく思った。

（↑お母さんのマーガレット、妹のシャーロット、ジェニー）

VOICE

5. 留学生の声

5−1　留学生短期国際交流員事業

東京都北区では、十数年前に「留学生の短期国際交流員事業」が開始された。この制度は、留学生が短期間、区内の各職場の仕事を手伝うことで、留学生と区民、区職員とが交流をし、それを通じて地域の国際化を図ることを目的としたものである。毎年20名ほどの外大の留学生が応募し、参加してきている。

今年度も１６名の留学生が、保育園、福祉作業所、デイホーム、児童館などの様々な職場で仕事を手伝い、貴重な体験をすることが出来た。同時に、地域の国際化にもささやかではあるが、貢献ができたと思われる。以下に、参加留学生の体験記と、受け入れ職場の感想文のいくつかを掲載する。（梅田　記）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

孟　春暁（大学院女子学生、中国）

滝野川東デイホームでの４日間は私に取って、本当に色々と勉強になり、お世話になりました。心より皆さんにお礼したいです。有り難うございました。お年寄りと異文化交流を行う間に、人の温かい心を感じました。この世のことはどんなことでも美しいと感じました。生活と生命は、本当に宝物と思います。若者達はもっと早くその大切さを知って、この世界をもっと良い方向へ推進すべきだと思いました。お年寄りから色々教えてもらって本当に嬉しかったです。皆さんの姿から私は多くのことを学びました。とてもありがたいです。職員の皆さんにも感謝しております。非常に優しく大好きな方々です。もしよろしかったら、又会いに行きたいと思っています。

従事内容：利用者の出迎え、お茶だし、一緒に体操。出身国の文化紹介：モンゴル語を教える、モンゴルの遊牧民の暮らしの紹介、モンゴルの民族衣装を着て、歌を歌う、利用者と折り紙を折る、輪投げ、トランプなどして一緒に遊ぶ。

受け入れ職場滝野川東デイホームの感想文

モンゴルの異文化の話を利用者が大変興味を持ち、次々と質問を浴びせたが、孟さんは、一つ一つ丁寧に質問に答えてくれました。多分、小さい頃から家族や年長者を敬う心が養われているのだと思いますが、高齢者への接し方が常に暖かく優しかったです。輪投げや剣玉、転倒予防体操など、生まれて初めて行うことも、一生懸命に取り組んでくれました。そのひたむきさが、利用者の心を打ち、皆からかわいがられ、利用者達も孟さんから元気をもらい、若返ってかえっていきました。礼儀正しく、利用者への挨拶も気持ちよく、楽しい４日間でした。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

シア・リダ　（大学院女子学生、カンボジア）

まず、短期国際交流員として参加させて頂き、本当に有り難うございました。浮間保育園での交流では、たくさんのことを学び、たくさんのすてきな思い出が出来ましたので、非常に良い経験だと思います。

浮間保育園では、三歳から五歳の子供と触れあうチャンスを与えてくれたことによって、様々なことを学びました。例えば、子供のお世話や子供との遊び等です。子供とうまくコミュニケイションを取ることが出来ることは何より嬉しいです。子供達は、皆とってもかわいくて、純粋です。その五日間は、ずっと一緒に笑ったり、お互いの国の遊びをしたりして、とても楽しかったです。特に、一番印象に残ったことは、初めての日の暖かい歓迎と、最後の忘れられないすてきなお別れ会のことです。両方とも子供達と職員の皆さんに囲まれて、お互いの国のことを学び、子供達から可

愛い絵やすてきなメッセージをもらって、何より嬉しかったです。貴重な経験をさせて頂き、心より感謝申し上げます。

従事内容：出身国の紹介；カンボジアの挨拶、文字、伝統芸能、民族衣装など、カンボジアの歌、ゲーム、折り紙の紹介

保育補助：プールの補助、着替えの補助、食事配膳

受け入れ職場浮間保育園の感想文

五日間を通して、幼児クラスの保育補助及びカンボジアと日本のお互いの国の遊び等を紹介しあいながら、子供達と交流を持っていった。子供達はカンボジアの言葉、文化、遊びなどに興味を持つと共に、特に五歳児はカンボジア以外の国へも興味が広がり、自分とは異なる文化を持った、様々な人に関心を持つきっかけになり、交流員を受け入れたことは、良い結果になった。　交流員自身も積極的かつフレンドリーに保育園業務に従事してもらったことで、より交わりを深めることが出来た。

VOICE
6. 会員の声

中学生に海外自転車旅を語ったら

舘　浩道（幹事・地域住民会員）

先日といっても、昨年秋のことになるが、ボクが住んでいる街のある中学校から、中学３年生200人への講演を依頼された。

総合学習の時間に地域の市民から話を聞こうという「授業」で、テーマは「海外自転車旅から見た日本」。

ボクは自分の自転車を中心にしたリタイア後の暮らしについて、何度か講演もしているが、中学生相手となると話は別だ。自分の孫ほどの年頃の生徒たちを相手にうまく話すことができるだろうかと、年甲斐もなく緊張を強いられた。

ボクは中学生の前で、パワーポイントの映像をまじえながら、なぜ自転車で海外の国々を旅するのか。有名観光地だけではその国は理解できないこと、自転車で回ると普通の人びとの暮らしが見えてくること、1日数10キロから100キロ走り続ける体力や現地の人々と積極的にコミュニケーションする姿勢も大切なこと、「トヨタ」「キャノン」といった日本製品はよく知られており、日本製は優秀だと云ってくれる現地の人たちの日本人観は「風のように来て、風のように去って行く日本の旅行者」というもので、外国の人たちには、日本人の素顔が見えていないことなどを話して、だから草の根の国際交流、つまり一期一会の出会いを大切にしているという話をした。

また、外国の暮らしと日本を比べてみると、ヨーロッパ圏では個人や家庭生活を大切にし、人生を楽しんでいるし、それとは逆に日本では労働時

間があまりに長すぎるとして「君たちのお父さんは何時に帰ってくる？」と問いかけもした。

最後に平和のためには国を越えてその国の文化を尊重し理解しあうことが大切と結んだ。

話を終えて、たくさんの中学生から質問攻めにあい、ボクが持ちこんだ自転車を囲んで写真を撮られたりもした。

後日、中学生たちから分厚い感想文が入った封筒が送られてきた。そのなかから、幾つか抜粋すると・・・

カッコイイし、羨ましいと思った／1日100キロを自転車で走っている人がいると思わなかった／自転車で世界を旅しようと考え行動に移すところが尊敬できる／何事も中途半端な自分だったが、勇気をもらった／やりたいことを始めるのに早すぎるとか、遅すぎるということはないと感じた／当たり前のようにある自転車で世界を旅する発想はボクにはなかった／当日、休んだので友達から聞いたが「言葉の壁を越える草の根交流」がすごい／受験の壁を乗り越えたら新しい自分に会えるかも／自分のペースで走りきるというのは勉強にも活かせる／受験を控えている僕より頑張っている／何事も諦めないことが大切と学びました／何歳になっても自転車で世界を旅しようという強い心に感動／写真のみんな笑顔で楽しそう。「日本人は風のようにやって来て風のように去ってゆく」といわれる現代生活は考えさせられる／「日本人は働き過ぎ」のことも考えされられる／「またつまらない話だろう」と思ったが最後は「おもしろかったなぁ」／中３のみんなは将来の希望と夢の話が聞けた／講演会はほんとによかった。舘さんは世界に誇れる日本人／家に泊めてもらえるまで親しくなれるなんて凄い。どの国の人も心から笑っていて心が温かくなる／「人々の暮らしと自然がうまく混じり合った場所が美しい」という言葉が印象的。14ヵ国8700キロも旅している輝く素晴らしい人生だ／中学生の自分が夢を諦めているのがバカバカしく思え、夢に向かって頑張ってみようと思う／早速、家で親にも話し家族との時間が作れたとき家族みんなに笑顔がでました・・・などなど。

こうした素晴らしい中学生たちからの感想文を読んで、ボクも感動し、次の返事を出した。

先日はボクの話を熱心に聞いてくれて、どうもありがとう。みなさんから熱い手紙を頂きました。

「カッコいい」「ロマンを感じた」などと率直な感想に思わず引きこまれて、全部の手紙を読ませてもらいましたよ。若い自転車ファンが増えるような気がしています。

また、みなさんの作文力に驚きました。どの手紙も素直に自分の感じたことが豊かに表現されていました。英語など外国語を身につけることは国際交流をはかるうえで大切なことですが、それ以上に大事なのは豊かな日本語の力をつけることです。そうでないと外国の人と会話できたとしても、中身ある交流が出来ないからです。自分の思いを率直に相手に伝えるために考えたことを相手に理解してもらえるようにまとめるのが国語力だと思います。みなさんはよく頑張っていると思いました。

ボクは先生から講演を頼まれたとき、正直いって不安がありました。中学生たちがちゃんと話を聞いてくれるだろうかと・・・。ボクにも中学2年の孫がいますから、孫に話すようにやろうと思いました。結果は、とてもよく話を聞いてくれて深く心が通じ合えました。こんな嬉しいことはありません。今年のスペイン巡礼路やトルコでの交流も楽しかったのですが、中学生たちと心が通じ合えたことが今年一番の収穫です。

それ以降、街で偶然彼らのうちの数人と出会ったのだが、向こうから挨拶してくれた。中学生から声を掛けられるなんて、この街に住んで10年を越えるが、初めてのことだ。

ご入会、ご寄付
ご協力いただき、ありがとうございます

新規加入者

■一般会員（平成21年10月20日～22年1月15日）
（敬称略）
原田種直、鈴木幹雄、清水明里

会員寄付者

■ 一般寄付（平成21年10月20日～22年1月15日）
（敬称略）
飯田和夫、生山裕美子、池端雪浦、石嶋啓造
伊関滝子、上野幸江、大島正勝、大山幸房
奥澤清子、邱淑珍、下田菊美、瑞應寺（中島剣山）
古川早紀子、町田裕子、松下宗柏、宮井捷二
山本博史、横石邦彦

■ 緊急貸付基金寄付（敬称略）
内海香織

万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節は、当会までお知らせ下されば幸いです。

1月15日現在
会員数：970名
納入者：444名
納入率：45.8%

すべての活動は、皆様の年会費で行っております。本年度会費の未納の方々は同封の振込用紙にてお振込くださいます様、お願いもうしあげます。

※ ひとりでも多くの方々の早期納入のご協力をお願い致します。

一般会員：年会費　3,000円
協賛会員：年会費　20,000円

留学生支援　会員の皆様ひとりひとりが留学生の笑顔をつくります！

平成21年度　会費納入のお願い
3月31日（水）まで受付

会員の皆様には、これまで支援活動へのご協力、ご支援をいただき、ありがとうございます。

1月15日現在、**4割5分強の方々**に会費納入いただきました。御礼申し上げます。と同時に納入をお忘れの方、納入率アップに是非ご協力下さい。

納入率6割強を目指しています。来年度の活動をご支援いただくためにも、是非会費納入をお願い申し上げます。

平成22年度も**引き続き**会員としてご支援いただきたく、本年度会費を同封の振込用紙にてお振込下さいます様、お願い申し上げます。**振込用紙にメールアドレスをお書き添えいただければ**、今後、当会の各種イベントなどの情報をお届けしていきます。

ACTIVITIES
7. これからの活動

1　3月21日（日）
鎌　倉　見　学

日時　3月21（日）（春分の日・祝日）
募集人数　留学生30名、日本人学生10名
コース　新宿小田急－藤沢乗り換え鎌倉－八幡宮－昼食－建長寺－亀ケ谷－そのまま－江ノ電で長谷寺－大仏－鎌倉（コースは変更する場合もあります）

参加ご希望の方は、当会連絡室、または下記までご連絡下さい。042-330-5183（梅田）
参加費　3,500円（会員の方のご参加は実費）
お願い　前日までのキャンセルは連絡室、または下記までご連絡下さい。
042-330-5183（梅田）
080-3080-3007（中嶋）

2

春期バザー開催
4月26日(月)～4月27日(火)
場　所　交流会館2号館交流室

ご協力いただき、留学生に毎回大変好評いただいております春期(4月期)バザー開催に向けて、下記の要領にてバザー用品送付受付期日をご確認の上、ご準備、ご手配いただきたくお願いを申し上げます。

バザー用品受付

4月19日(月)～4月23日(金)

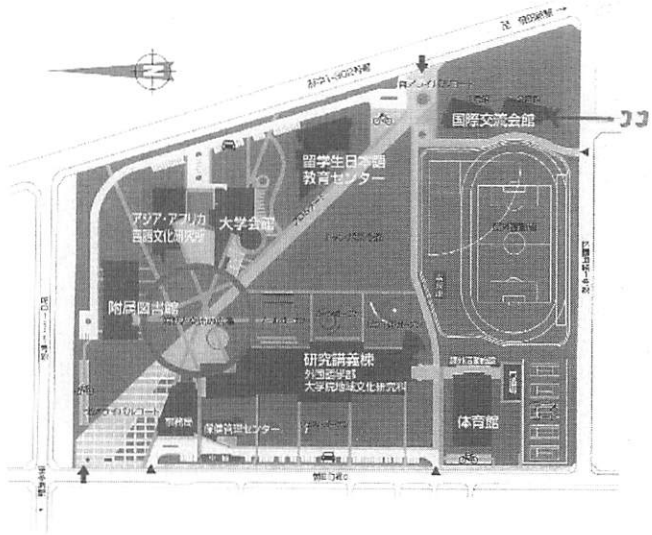
お送りいただきたい物品

■各種辞書、日本文化・歴史に関する書籍、文学作品、日本語教育、日本語学習関連書籍など
■台所用品(小型の鍋、フライパン、電気炊飯器、レンジ、トースターなど)
■日常生活用品(自転車、タオル、毛布、布団、食器、衣類、電気製品(一人で持ち運び可能なもの)、保存のきく食品など)
※一人で持ち運びが不可能な大型電気製品については梅田(042－330－5183)までご連絡をいただきたいと思います。
※衣類や布ものは、新品同様またクリーニング済のものを希望します。
■国際交流事業の一環としての「着物・着付け」用男性羽織・袴一式、振袖、帯など
※古着可、ただし使用可能なもの

送付先
東京外国語大学留学生課気付
東京外国語大学留学生支援の会　住所
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1
TEL042-330-5759(土、日は連絡不可)

送料　宅急便等で品物をお送りいただく場合には、恐れ入りますが、従来通り送料のご負担をお願いいたします。お手数ですが**「午後便」**をご指定下さい。

※　平日の時間(12:30～16:00)は、連絡室が開いております。直接搬入も可能となりましたので、右上の地図で場所(国際交流会館)をご確認ください。



◆◆◆◇◆◆◇◆◆◆◇◆◆◇◆◆◆◇◆◆

JOIN FOR BAZAAR!

◆◆◆◇◆◆◇◆◆◆◇◆◆◇◆◆◆◇◆◆

お願い　バザーの人手が足りません！ご協力を！
バザー用品の物品仕分けや、準備をする人手のご協力をお待ちします。

当日のお手伝い参加可能な方は、当会または下記までご連絡下さい。
042-330-5183(火、水、金のみ、梅田まで)

幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。
平成21年11月15日(日)
平成21年12月12日(土)
平成22年1月17日(日)
平成22年2月21日(日)

ご意見、感想など、会報への

投稿募集

どしどし
お寄せ下さい

当会へのご意見、ホームビジットやイベントに関しての感想文など、会報への投稿をお待ちしております。
お気軽にお問い合わせ下さい。

通常 2 月に発刊しております本会報ですが、今回事情により発行が遅れました事、お詫び申し上げます。

＜お問い合わせ先＞
〒183-8534 東京都府中市朝日町３－１１－１
東京外国語大学 留学生課気付（梅田、谷川）
ＴＥＬ：０４２－３３０－５１８３
ＦＡＸ：０４２－３３０－５７６２
Ｅ－ｍａｉｌ：tufs-issa@nifty.com
http://homepage3.nifty.com/is-tufs/

©Copyright 2010, TUFS International Student Support Association